

目次

1. 工作機械統計・産業動向

- ◆米国工作機械受注統計(5月) 1
- ◆米国工作機械受注統計(地域別) 2
- ◆台湾工作機械輸出入統計(2026年4月) 2
- ◆韓国工作機械主要統計(2026年4月) 3

2. 主要国・地域経済動向

- ◆米国：PMI 53.3%(6月) 7
- ◆中国製造業 PMI 50.3%(6月) 8
- ◆2026年オーストリア機械産業情報 8
- ◆ドイツ工作機械業界、
2026年第1四半期に受注が増加 16
- ◆海外業界ニュース：メキシコ、ブラジル 17
- ◆海外業界動向：中国 19
- ◆韓国工作機械、AI・半導体ブームに乗り、
1～4月に1.2兆円の受注 21
- ◆欧州通商政策動向 21
- ◆米国製造業：貿易政策から産業政策へ 23
- ◆米国通商政策動向：
少額免税措置の廃止 24
米国におけるコネクテッドカー事情 25
USMCA延長の否決 26

3. 工作機械関連企業動向

- ◆thyssenkruppとGlobalLogicがフィジカルAIと
産業の脱炭素化を目指すアライアンスを締結 29
- ◆Mastercam、Mastercam Indiaの
戦略的買収を完了 30
- ◆HELLER、ファンボロー国際航空ショーで
航空宇宙分野における専門技術を披露 31

4. 展示会情報

- ◆GrindingHub 2026におけるトレンドと
技術開発 32

5. その他

- ◆ユーザー産業情報 34

6. 日工会外需状況(6月)

- 45

お知らせ

- IMTEX 2027ジャパンパビリオンの出展募集 47

1. 工作機械統計・産業動向

◆米国工作機械受注統計(5月)

AMT(全米製造技術協会)が発表する「米国製造技術受注レポート」によると、2026年5月の金属加工機械の新規受注額は合計5億8,340万ドルであった。これは2026年4月比で1.8%の減少だが、2025年5月比では47.8%の増加にあたる。2026年の最初の5ヶ月間における製造技術の受注総額は27億7,000万ドルに達し、2025年同期比で31.9%増加した。最近の出来事により、企業や消費者の間では先行きに対する懸念が高まっているが、米国経済は依然として堅調であり、機械への旺盛な需要は楽観的な見通しを裏付ける要因となっている。製造技術への投資は、メーカーが増大する生産需要に対応するために、さらなる生産能力を必要としていることを示唆している。受注台数の伸びは、受注金額の伸びに比べると緩やかなペースで推移している。この傾向の一部は価格に影響を与える通常の市場原理によるものだが、より大きな要因は自動化への需要の高まりにある。企業は、製造業で現在50万人近い求人が未充足のまま推移する中、需要予測の拡大に合わせて生産量を増やそうとしており、そのために自動化を求めている。

(USMTOレポート 2026年7月13日付)

米国工作機械受注統計

(金額単位：千ドル)

年 月	切削型受注		成型型受注	
	台 数	金 額	台 数	金 額
2025年 5月	1,502	383,486	21	11,218
6月	1,595	423,959	16	D
7月	1,576	387,377	8	D
8月	1,841	533,129	18	4,512
9月	1,795	482,386	28	12,428
10月	2,008	550,327	18	4,961
11月	1,640	429,606	20	3,729
12月	2,572	807,498	20	7,938
2026年 1月	1,457	426,638	18	11,280
2月	1,680	478,072	21	5,833
3月	2,125	656,779	23	8,873
4月	1,853	585,134	20	9,134
5月	1,905	574,557	17	8,810
平均	1,811	516,842	19	8,065

◆米国工作機械受注統計(地域別)

(金額単位：百万ドル)

地域別	2026年5月 (P)	2026年4月 (R)	前月比 (%)	前年同月	前年同月比 (%)	2026年累計(P)	2025年累計 (R)	前年同期比 (%)
全米	583.4	594.3	-1.8	394.7	47.8	2,765.1	2,097.0	31.9
北東部	113.7	97.4	16.7	50.1	126.8	443.6	325.5	36.3
南東部	85.1	53.9	57.9	50.5	68.6	345.2	271.1	27.3
北中東部	99.4	118.2	-15.9	115.2	-13.7	514.8	496.5	3.7
北中西部	97.8	89.7	9.0	62.6	56.2	454.9	348.2	30.6
南中部	66.5	69.8	-4.7	35.1	89.7	272.8	224.7	21.4
西部	120.9	165.2	-26.8	81.3	48.7	733.7	430.9	70.3

P：暫定値 R：改定値
データは成型形含む

◆台湾工作機械輸出入統計(2026年4月)

台湾工作機械輸出入統計(2026年1～3月)

(単位：千USドル)

機 種 名	輸 出			輸 入		
	2025.1-4	2026.1-4	前年比(%)	2025.1-4	2026.1-4	前年比(%)
放電加工機・レーザ加工機	51,326	70,886	38.1	83,403	90,915	9.0
マシニングセンタ	186,162	167,965	-9.8	21,395	28,839	34.8
旋盤	132,904	119,947	-9.7	20,676	16,435	-20.5
ボール盤・フライス盤・中ぐり盤	43,658	42,021	-3.7	2,774	3,909	40.9
研削盤	63,817	68,261	7.0	11,758	18,391	56.4
歯切り盤・歯車機械	28,265	29,187	3.3	11,298	5,498	-51.3
切 削 型 合 計	506,132	498,267	-1.6	151,304	163,987	8.4

出所：TAMI

台湾工作機械国別輸出入統計(2026年1-4月)

(金額単位：千USドル)

輸 出						輸 入					
順位	国 別	2025.1-4	2026.1-4	割合(%)	前年比(%)	順位	国 別	2025.1-4	2026.1-4	割合(%)	前年比(%)
1	中 国	174,458	170,139	28.0	-2.5	1	日 本	87,130	96,123	48.9	10.3
2	米 国	102,390	95,617	15.8	-6.6	2	中 国	33,266	50,862	25.9	52.9
3	ベトナム	26,855	47,448	7.8	76.7	3	ド イ ツ	21,778	12,000	6.1	-44.9
4	イ ン ド	45,401	42,113	6.9	-7.2	4	韓 国	9,130	9,664	4.9	5.8
5	タ イ	34,890	27,820	4.6	-20.3	5	ス イ ス	7,475	6,818	3.5	-8.8
6	トルコ	46,724	27,402	4.5	-41.4	6	タ イ	4,974	5,477	2.8	10.1
7	ド イ ツ	8,530	16,064	2.6	88.3	7	イスラエル	3,651	3,124	1.6	-14.4
8	オランダ	12,977	15,102	2.5	16.4	8	英 国	4,866	2,244	1.1	-53.9
9	マレーシア	11,794	14,292	2.4	21.2	9	台 湾	1,809	1,928	1.0	6.6
10	日 本	16,283	12,406	2.0	-23.8	10	フ ラ ン ス	3	1,496	0.8	49766.7
11	イタリヤ	9,528	11,338	1.9	19.0		そ の 他	9,288	6,745	3.4	-27.4
12	韓 国	8,402	10,543	1.7	25.5						
13	メキシコ	9,042	9,102	1.5	0.7						
14	英 国	11,034	8,486	1.4	-23.1						
15	オーストリア	7,454	8,166	1.3	9.6						
16	インドネシア	9,517	8,044	1.3	-15.5						
17	ベルギー	6,274	7,968	1.3	27.0						
18	ブラジル	12,970	6,283	1.0	-51.6						
19	フランス	4,758	6,145	1.0	29.2						
20	スペイン	4,945	6,128	1.0	23.9						
21	カナダ	6,826	5,897	1.0	-13.6						
22	イスラエル	1,631	4,042	0.7	147.8						
23	南アフリカ	2,204	3,518	0.6	59.6						
24	ポーランド	6,120	3,328	0.5	-45.6						
25	シンガポール	3,491	2,779	0.5	-20.4						
26	ギリシャ	1,842	2,655	0.4	44.1						
27	ポルトガル	1,430	2,145	0.4	50.0						
28	アラブ首長国	2,505	1,850	0.3	-26.1						
29	スウェーデン	1,009	1,757	0.3	75.9						
30	ウクライナ	3,543	1,769	0.3	-50.1						
	そ の 他	32,815	26,247	4.3	-20.0						
	合 計	627,642	606,611	100.0	-3.4		合 計	183,370	196,481	100.0	7.2

出所：海関進出口統計月報

◆韓国工作機械主要統計(2026年4月)

○業種別受注(2026.4) 韓国工作機械受注(2026年4月) (単位：百万ウォン)

需要業種	2026.3	2026.4	前月比(%)	2025.1-4	2026.1-4	前年同期比(%)
鉄鋼・非鉄金属	1,882	1,619	-14.0	12,870	4,936	-61.6
金属製品	849	137	-83.9	1,272	1,276	0.3
一般機械	21,291	33,921	59.3	118,669	101,012	-14.9
電気機械	16,956	10,086	-40.5	38,677	43,120	11.5
自動車	22,143	39,882	80.1	156,283	140,333	-10.2
造船・輸送用機械	8,684	5,112	-41.1	26,845	20,477	-23.7
精密機械	3,584	6,456	80.1	25,577	14,158	-44.6
その他製造業	7,493	7,131	-4.8	19,429	22,326	14.9
官公需・学校	38	318	736.8	1,340	394	-70.6
商社・代理店	27,824	9,064	-67.4	24,057	46,315	92.5
その他	0	0	-	0	0	-
内 需 合 計	110,744	113,726	2.7	425,019	394,347	-7.2
外 需	254,626	202,783	-20.4	647,483	798,069	23.3
総 合 計	365,370	316,509	-13.4	1,072,502	1,192,416	11.2

出所：韓国工作機械産業協会

○機種別受注(2026.4)

(単位：百万ウォン)

機 種	2026.3	2026.4	前月比(%)	2025.1-4	2026.1-4	前年同期比(%)
N C 小 合 計	361,640	308,376	-14.7	1,042,838	1,175,150	12.7
NC旋盤	164,487	163,102	-0.8	500,571	581,031	16.1
マシニングセンタ	156,208	112,996	-27.7	390,925	438,313	12.1
NCフライス盤	0	0	-	2,198	240	-89.1
NC専用機	20,865	16,859	-19.2	86,422	94,786	9.7
NC中ぐり盤	12,177	9,538	-21.7	28,961	35,281	21.8
NCその他の工作機械	6,998	4,251	-39.3	24,479	19,214	-21.5
非 N C 小 合 計	2,243	7,064	214.9	21,539	11,976	-44.4
旋盤	735	4,080	455.1	8,608	5,604	-34.9
フライス盤	672	2,406	258.0	7,124	3,582	-49.7
ボール盤	38	0	-	139	38	-72.7
研削盤	751	443	-41.0	5,668	2,423	-57.3
専用機	47	135	187.2	0	329	-
その他の工作機械	0	0	-	0	0	-
金 属 切 削 型	363,883	315,440	-13.3	1,064,377	1,187,126	11.5
金 属 成 形 型	1,487	1,069	-28.1	8,125	5,290	-34.9
総 合 計	365,370	316,509	-13.4	1,072,502	1,192,416	11.2

出所：韓国工作機械産業協会

韓国工作機械生産&出荷統計(2026年4月)

○生産(2026年4月)

(単位：百万ウォン)

機 種 別	2026.3	2026.4	前月比(%)	2025.1-4	2026.1-4	前年同期比(%)
N C 小 合 計	173,385	199,732	15.2	643,080	666,584	3.7
NC旋盤	72,881	92,337	26.7	312,766	296,790	-5.1
マシニングセンタ	61,578	72,476	17.7	222,342	230,116	3.5
NCフライス盤	200	97	-51.5	498	297	-40.4
NC専用機	24,763	21,121	-14.7	68,870	91,288	32.6
NC中ぐり盤	4,917	2,834	-42.4	11,374	12,124	6.6
NCその他	7,361	9,381	27.4	16,579	29,832	79.9
非 N C 小 合 計	1,677	1,289	-23.1	9,094	5,170	-43.1
旋盤	0	0	-	1,058	0	-
フライス盤	622	937	50.6	3,555	3,059	-14.0
ボール盤	0	0	-	1,195	0	-
研削盤	683	205	-70.0	2,896	1,573	-45.7
専用機	372	147	-60.5	390	538	37.9
その他	0	0	-	0	0	-
金 属 切 削 型 合 計	175,062	201,021	14.8	652,174	671,754	3.0
金 属 成 形 型 合 計	14,238	14,279	0.3	64,441	61,987	-3.8
総 合 計	189,300	218,300	13.7	716,615	733,741	2.4

出所：韓国工作機械産業協会

○出荷(2026.4)

(単位：百万ウォン)

機 種 別	2026.3	2026.4	前月比(%)	2025.1-4	2026.1-4	前年同期比(%)
N C 小 合 計	301,402	248,370	-17.6	831,849	923,873	11.1
NC旋盤	143,005	129,415	-9.5	416,870	453,502	8.8
マシニングセンタ	122,555	84,512	-31.0	280,529	339,597	21.1
NCフライス盤	200	123	-38.5	498	323	-35.1
NC専用機	24,763	21,121	-14.7	88,034	91,288	3.7
NC中ぐり盤	5,100	4,630	-9.2	18,577	13,717	-26.2
NCその他	4,094	7,083	73.0	16,690	19,309	15.7
非 N C 小 合 計	2,719	2,533	-6.8	15,234	8,803	-42.2
旋盤	941	1,066	13.3	6,764	3,172	-53.1
フライス盤	655	978	49.3	3,723	3,184	-14.5
ボール盤	0	0	-	1,227	0	-
研削盤	751	342	-54.5	3,130	1,909	-39.0
専用機	372	147	-60.5	390	538	37.9
その他	0	0	-	0	0	-
金 属 切 削 型 合 計	304,121	250,903	-17.5	847,083	932,676	10.1
金 属 成 形 型 合 計	1,033	889	-13.9	5,669	3,653	-35.6
総 合 計	305,154	251,792	-17.5	852,752	936,329	9.8

出所：韓国工作機械産業協会

○機種別輸出(2026.4) 韓国工作機械輸出統計(2026年3月) (単位: 千USドル)

機種別	2026.3	2026.4	前月比(%)	2025.1-4	2026.1-4	前年同期比(%)
N C 小 合 計	164,796	148,623	-9.8	548,266	558,534	1.9
NC旋盤	77,087	65,573	-14.9	255,928	255,316	-0.2
マシニングセンタ	54,437	45,886	-15.7	160,907	173,684	7.9
NCフライス盤	1,256	796	-36.6	5,556	3,834	-31.0
NC専用機	0	0	-	11,791	0	-
NC中ぐり盤	1,316	4,168	216.7	11,145	8,722	-21.7
レーザ加工機	20,318	24,877	22.4	80,687	88,674	9.9
NCその他	4,369	3,578	-18.1	11,248	13,245	17.8
非 N C 小 合 計	6,501	7,332	12.8	36,611	26,647	-27.2
旋盤	284	618	117.5	2,231	2,169	-2.8
フライス盤	588	854	45.2	3,511	3,155	-10.1
ボール盤	192	386	101.5	1,875	1,036	-44.7
研削盤	1,307	1,156	-11.6	3,303	4,792	45.1
専用機	0	0	3.3	174	112	-35.8
その他	3,108	3,113	0.2	16,470	10,808	-34.4
金 属 切 削 型 合 計	171,297	155,955	-9.0	584,877	585,181	0.1
金 属 成 形 型 合 計	43,563	36,778	-15.6	171,844	141,084	-17.9
総 合 計	214,860	192,732	-10.3	756,720	726,266	-4.0

出所: 韓国通関局

○仕向け国別輸出(2026.1-4) (単位: 千USドル)

機種別	アジア	中国	インド	アメリカ	欧州	ドイツ	トルコ
NC小合計	216,468	72,245	58,508	136,649	162,846	65,307	47,242
NC旋盤	48,736	16,972	20,826	79,020	111,517	46,537	35,047
マシニングセンタ	69,235	21,513	30,384	38,064	46,573	16,673	11,432
NCフライス盤	2,291	305	749	890	459	0	0
NC専用機	0	0	0	0	0	0	0
NC中ぐり盤	3,688	2,685	1,001	1,918	0	0	0
レーザ加工機	77,190	23,460	2,048	8,456	1,251	98	104
NCその他	4,256	819	1,580	6,584	1,775	1,220	533
非NC小合計	19,172	5,870	5,870	4,289	1,854	755	236
旋盤	1,783	163	819	212	69	69	0
フライス盤	2,059	545	363	879	160	52	0
ボール盤	968	149	11	47	20	0	0
研削盤	4,079	1,096	2,085	574	88	81	0
専用機	1	0	0	0	111	111	0
その他	7,204	3,461	1,711	1,751	910	226	235
金 属 切 削 型 合 計	235,640	78,115	64,378	140,938	164,700	66,062	47,478
金 属 成 形 型 合 計	95,715	5,060	64,223	26,714	7,649	521	3,845
総 合 計	331,355	83,174	128,601	167,652	172,349	66,583	51,323

出所: 韓国通関局

○機種別輸入(2026.4) 韓国工作機械輸入統計(2026年4月) (単位: 千USドル)

機 種 別	2026.3	2026.4	前月比(%)	2025.1-4	2026.1-4	前年同期比(%)
N C 小 合 計	51,200	47,617	-7.0	202,409	202,466	0.0
NC旋盤	5,626	3,413	-39.3	20,728	15,392	-25.7
マシニングセンタ	13,290	13,177	-0.9	39,847	47,434	19.0
NCフライス盤	490	1,290	163.3	923	24,485	2,552.8
NC専用機	8	0	-	1,858	2,325	25.1
NC中ぐり盤	1,402	204	-85.4	6,275	4,255	-32.2
レーザ加工機	16,541	18,010	8.9	76,848	65,819	-14.4
NCその他	3,941	176	-95.5	2,525	5,486	117.2
非 N C 小 合 計	5,825	6,284	7.9	29,218	22,516	-22.9
旋盤	221	621	180.6	1,503	1,671	11.2
フライス盤	234	80	-65.9	1,312	1,618	23.3
ボール盤	201	232	15.5	1,154	1,028	-10.9
研削盤	652	954	46.3	7,705	2,428	-68.5
専用機	0	0	-	35	0	-99.4
その他	2,773	2,354	-15.1	8,325	9,495	14.1
金 属 切 削 型 合 計	57,025	53,901	-5.5	231,627	224,982	-2.9
金 属 成 形 型 合 計	9,783	8,025	-18.0	52,111	44,553	-14.5
総 合 計	66,809	61,926	-7.3	283,738	269,535	-5.0

出所: 韓国通関局

○輸入国別(2026.1-4)

(単位：千USドル)

機種別	アジア	日本	台湾	米国	欧州	ドイツ	イタリア
N C 小 合 計	148,048	68,148	7,292	1,160	51,303	14,321	2,554
NC旋盤	13,956	6,186	906	46	1,390	0	0
マシニングセンタ	40,924	31,003	4,268	334	6,172	5,523	350
NCフライス盤	1,952	436	293	10	22,523	0	0
NC専用機	925	707	0	0	1,400	1,400	0
NC中ぐり盤	2,147	1,250	0	0	2,108	7	2,101
レーザ加工機	61,466	19,485	95	186	4,162	1,922	95
NCその他	2,546	1,401	0	539	2,395	2,367	8
非 N C 小 合 計	14,734	4,777	1,113	1,437	6,313	3,996	252
旋盤	1,621	599	114	0	50	43	0
フライス盤	226	23	0	1,056	335	243	6
ボール盤	956	175	26	3	41	15	0
研削盤	2,301	824	232	9	114	0	1
専用機	0	0	0	0	0	0	0
その他	5,306	1,789	29	38	4,151	3,661	36
金 属 切 削 型	162,782	72,925	8,405	2,597	57,616	18,317	2,806
金 属 成 形 型	24,209	7,553	966	1,034	19,280	2,235	9,397
総 合 計	186,991	80,478	9,371	3,630	76,896	20,552	12,202

出所：韓国通関局

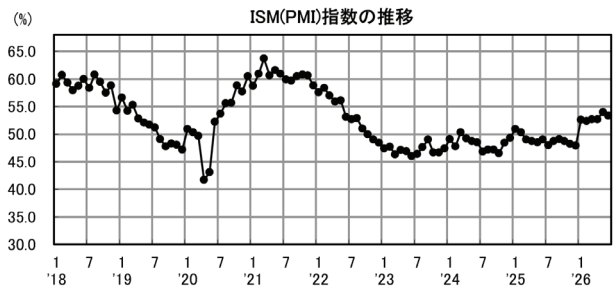
2. 主要国・地域経済動向

◆米国：PMI 53.3%（6月）

最新のISM®製造業PMI®レポートによると、米国のサプライチェーン幹部らは、製造業の経済活動が6月に5ヶ月連続で拡大したと述べている。

このレポートは、ISM®製造業景況感調査委員会の委員長であるスーザン・スペンス氏(MBA)によって発表された。

スペンス氏は次のように述べている。「6月の製造業PMI®は53.3%を記録し、5月から0.7ポイント低下した。経済全体は20カ月連続で拡大を続けている（製造業PMI®が一定期間47.5%を上回る水準で推移することは、一般的に経済全体の拡大を示唆）。新規受注指数は、4カ月連続の縮小局面を経て6カ月連続で拡大し、56%を記録したが、これは5月の56.8%から0.8ポイントの低下となる。6月の生産指数(52.2%)は、5月の54.3%から2.1ポイント低下した。価格指数は拡大(または『上昇』)圏内を維持し、73%を記録したが、これは5月の82.1%から9.1ポイントの低下。受注残指数は50.5%を記録し、5月の52.2%から1.7ポイント低下した。雇用指数は49.7%を記録し、5月の48.6%から1.1ポイント上昇した。」



スペンス氏は次のように続けた。「6月の米国の製造業活動は拡大圏を維持したが、拡大のペースは前月と比べてわずかに鈍化した。PMI®を構成する5つのサブ指数のうち、新規受注指数と生産指数は前月より伸びが鈍化し、サプライヤー納期指数は鈍化の度合いが緩やかになった。一方、雇用指数と在庫指数は改善し、特に在庫指数は拡大圏に入った。

製造業の主要6業種のうち、「石油・石炭製品」を除く5業種が6月に拡大した。拡大の度合いが高い順に、コンピュータ・電子製品、機械、輸送用機器、化学製品、そして食料品・飲料・タバコ製品となっている。ISMが発表した6月の主要個別指数の前月比変動傾向は以下の通り。

項 目	2026年6月指数(%)	2026年5月指数(%)	備 考
ISM 指数(PMI)	53.3	54.0	前月比0.7ポイント減。PMIが50%を上回ると製造業の拡大を示唆。
新 規 受 注	56.0	56.8	前月比0.8ポイント減。拡大の基準は51.9である。11業種が増加を報告した
生 産	52.2	54.3	前月比2.1ポイント減。拡大の基準は、52である。8業種が増加を報告。
雇 用	49.7	48.6	前月比1.1ポイント増。9業種が増加を報告した。
入 荷 遅 延	57.4	60.6	前月比3.2ポイント減。長期化の基準は、50以上。18業種中12業種が長期化を報告した。
在 庫	51.4	49.9	前月比1.5ポイント増。拡大の基準44.5ポイントを上回った。7業種が在庫増を報告した。
顧 客 在 庫	42.3	42.7	前月比0.4ポイント減。4業種が増加を報告した。
仕 入 れ 価 格	73.0	82.1	前月比9.1ポイント減。15業種が増加を報告した。
受 注 残	50.5	52.2	前月比1.7ポイント減。8業種が増加を報告した。
輸 出 受 注	48.5	50.6	前月比2.1ポイント減。4業種が増加を報告した。
原 材 料 輸 入	52.9	53.0	前月比0.1ポイント減。10業種が増加を報告した。

※データは季節修正値

(ISM Manufacturing Report on Business 2026年7月1日付)

◆中国製造業 PMI 50.3% (6月)

6月の中国製造業購買担当者景気指数(PMI)は50.3%となり、前月から0.3ポイント上昇して拡大圏に回帰した。

企業規模別に見ると、大企業のPMIは50.7%(前月比0.4ポイント低下)で拡大圏を維持し、中堅企業のPMIは50.5%(同1.9ポイント上昇)で拡大圏に入った。一方、中小企業のPMIは48.2%(同0.3ポイント低下)となり、縮小圏にとどまった。

製造業PMIを構成する5つの指数のうち、生産指数と新規受注指数はともに拡大圏(50%超)にありましたが、原材料在庫指数、雇用指数、およびサプライヤー配送時間指数はいずれも縮小圏(50%未満)にあった。

生産指数は51.4%(前月比0.2ポイント上昇)となり、製造業における生産活動の拡大が加速していることを示した。

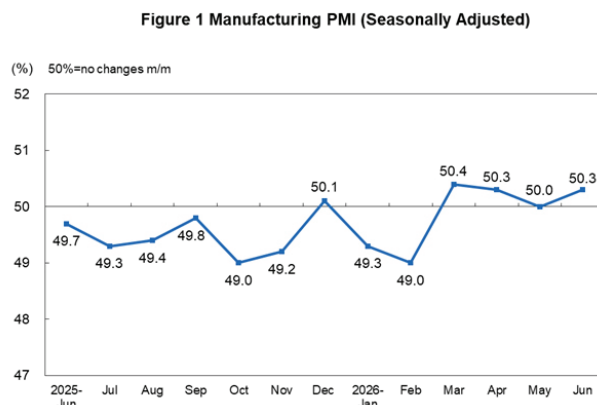
新規受注指数は51.2%(前月比1.3ポイント上昇)となり、製造業における市場需要が回復していることを示した。

原材料在庫指数は48.4%(前月比0.2ポイント低下)となり、製造業における主要原材料の在庫が引き続き減少していることを示した。

雇用指数は48.5%(前月比0.1ポイント低下)となり、製造業の雇用情勢がわずかに悪化したことを示した。

サプライヤー配送時間指数は49.9%(前月比0.7ポイント上昇)となり、依然として50%を下回っているものの、製造業のサプライヤーによる原材料の配送時間がわずかに遅延していることを示した。

(Bureau of Statistics of China 2026年7月1日付)



◆ 2026 年オーストリア機械産業情報

2024/2025 年基準で総売上約 359 億ユーロ、輸出比率約 94% の国で 2 位の製造業部門

特殊機械や工作機械分野など、グローバルな中小企業が多数存在し、環境に優しいデジタル転換のテーマが加速

1. 産業の特性

オーストリアの製造業部門は、2023年と2024年にエネルギー価格の上昇と欧州全体の需要減少により、生産増加ペースが鈍化するという厳しい時期を経験した。数万人の雇用を削減しなければならないという困難も経験したが、専門家は概ね2024年秋頃にオーストリアの製造業全体が底を通過したと分析している。2025年以降は機械・装置産業を中心に緩やかな回復基調が見られ、産業生産が継続的に減少したドイツとは対照的に比較的堅調な成長率を維持した。2026年現在、イラン戦争などの地政学的課題や米国の関税引き上げなど保護主義への懸念は依然として存在するが、インドを含む新興市場からの需要により、オーストリアの機械輸出は約2%成長すると予測されている。

オーストリアの機械産業は、現地では「Maschinenbau(機械製造業)」という概念の下に包括されることが多い。狭義の機械製造を超えて、設計、開発、精密加工、カスタムエンジニアリング、自動化システム、プラント構築までを含む概念である。これは国家の重要産業の一つで、売上高ベースで全製造業の中で第1位を占める鉄鋼・金属分野に次いで規模が大きく、国家輸出の中核を担っている。

1) 関連政策及び規制

海外企業がオーストリアの現地市場に進出したり、パートナーシップを結ぶ際に考慮すべき2026年基準の主要政策、規制、市場の課題を簡潔に見ていくと、以下のようになる。

①政府の9大「核心技術」への集中投資

オーストリア政府は2026年から2029年までに総額26億ユーロ(約3兆8,000億ウォン)の予算を投入し、9つの主要戦略分野を育成する計画を実行中である。「2035産業戦略」という名称のこの政策は、低迷した製造業を再建し産業競争力を回復させることを目的として推進されており、下落傾向にあった産業部門のGDPに占める比率(2024年基準)を2035年までに20%以上に回復させることを目標としている。9つの主要戦略分野の中で、機械産業と直接関連する技術を見てみると次の通りだ。

- 高精度製造技術とロボティクス：スマートファクトリーの実現と生産自動化の支援
- 先端素材：機械部品の耐久性と軽量化のための新素材研究
- モビリティ技術：鉄道及び航空分野の機械設備の競争力強化に重点
- エネルギー及び環境技術：カーボンニュートラル機械設備の開発支援

②EU最新統合機械規則

2023年7月19日に施行され、2027年1月20日から全面的に適用される予定のEU最新統合機械規則(EUMachineryRegulation2023/1230)は、従来の指令(EUMachineryDirective2006/42/EC)から規則へと移行した。これは機械の設計方式自体にまで影響を及ぼす規制の転換であり、従来の指針に比べて強制力が高まるため、加盟国ごとの解釈の違いを許さない。これにより、すべての産業機械製造企業において、製品設計段階で考慮すべきリスクの範囲が急激に拡大した。適合性評価、技術文書、安全要件だけでなく、デジタル文書、AI及びサイバーセキュリティに関する要求事項を含む対応体制を事前に整備することが求められる。

- サイバーセキュリティの強化：機械制御システムの外部ハッキングからの保護が必須であり、ハードウェア及びソフトウェアの完全性を証明すること
- AI及び自律機械：AIを搭載した機械や自律走行ロボットなどに対して、より厳格な安全性評価及び認証手続きを要求
- デジタル証明書：紙のマニュアルの代替としてQRコードなどを通じたデジタル使用説明書の提供を法的に許可

③グリーン&デジタルの法制化

- EUの炭素国境調整制度(CBAM)が本格化

EUの炭素国境調整制度は、炭素排出量の多い輸入品に費用を課すことで、域内企業の環境競争力を保護することを目的として実施されており、これにより鉄鋼やアルミニウムなど機械部品の原材料に対する炭素排出量の報告義務が強化された。オーストリアの機械産業も金属加工の比重が高いため、関連部品の輸出時にはカーボンフットプリントデータの提出が必須である。2023年10月から2025年12月までの移行期間を経て、2026年1月以降に本格的な施行期に入り、これにより欧州へ関連製品を輸出する企業は、実際の二酸化炭素排出量に相当する証明書(CBAMCertificate)を必ず購入しなければならない。

- EUサプライチェーン監査指針(CSDDD)

これは、企業に対しサプライチェーン内の人権侵害や環境破壊の有無を調査し公表する義務を課す措置であり、2025年12月16日に可決されたEUサプライチェーン監査指針改正案(OmnibusI)に基づき、オーストリアを含むEU加盟国はこれを2028年7月26日までに国内法へ移行し、2029年7月26日から企業に適用しなければならない。オーストリアではこの指針を実施・監督すると見込まれる政府機関として経済エネルギー観光省(BMWET)が挙げられている。これに対する企業の対応戦略としては、炭素排出量の管理や労働環境の遵守状況に関する透明なデータ(ESGレポートなど)の作成が挙げられる。

- ネットゼロ産業法(NetZeroIndustryAct、NZIA)

これは、カーボンニュートラル技術(太陽光、風力、バッテリー、水電解槽、熱ポンプなど)の域内生産能力を高めるための規制緩和及び支援策であり、核心目標は2030年までにEU内のカーボンニュートラル技術需要の最低40%を

自社生産することである。同法に基づく戦略プロジェクトに指定されれば、許認可手続きが大幅に短縮され、関連人材の育成を目的とした「ネットゼロ産業アカデミー」等を運営できる。2024年6月に正式に施行され、主要な規制条項は2025年末から2026年にかけて段階的に実施される。2026年1月からは、太陽光や風力などの再生エネルギー補助金オークションに関して、持続可能性およびレジリエンスの基準が適用され始め、サプライチェーンの多様化やサイバーセキュリティといった非価格の基準を最低でも30%以上義務的に適用しなければならない。

- デジタル製品パスポート

デジタル製品パスポートは、製品の全ライフサイクル情報をデジタル化して記録することで、リサイクル性やカーボンフットプリント追跡の重要なツールとして活用することを目的としている。EUが製品の設計段階からリサイクル性、耐久性、修理可能性を考慮するために定めた「エコデザイン規則(Ecodesign for Sustainable Products Regulation, ESPR)」から生まれた制度である。機械部品や設備部門でもデジタル製品パスポートの導入が本格化しており、製品の原材料、リサイクル可能性、修理履歴などのデータをデジタル化して管理する必要がある。機械製品の輸出時には部品単位までのデータ管理が必要であり、これは今後のEU市場参入に不可欠なライセンスとなる見通しだ。

2) 主要な課題

① サプライチェーンの多様化

地政学的な不安定性を解消する手段として、企業は特定の国に偏らずにサプライチェーンを分散させる努力を続けている。2025年の報告書によると、米国の保護主義と関税の影響で、オーストリアの機械産業の米国向け輸出は約23%急落した。それに伴い、企業はインド、東南アジア、南米(ブラジル)など新興市場への輸出ルートを多様化している。

②スマートファクトリーと持続可能性

関連機関が発行した最近の報告書によると、オーストリアの機械産業分野で活動している企業は「デジタル化」と「脱炭素化」で競争力を見出している。これらの企業の85%以上が家族経営の中小企業で規模は大きくないにもかかわらず、平均R&D投資率は売上の4%以上を維持している。高度なカスタマイズエンジニアリングサービスとスマートファクトリーソリューションにより、グローバルなニッチ市場を占有していることがオーストリア機械産業部門の特徴であり、特に人工知能を組み合わせた予知保全(Predictive Maintenance)とエネルギー効率機器部門で輸出競争力の優位性を維持している。

③知能型自動化とAIの統合

オーストリアをはじめとするヨーロッパ全体の製造業における慢性的な課題とされる熟練工不足が深刻化する中、労働人口減少の問題を解決するための高度な知能型自動化が切実な状況である。そのため、機械産業の現場では単純な反復作業を代替するロボットを超えた予知保全、自律最適化プロセス、自律走行物流システム(AGV/AMR)、AIベースの製品設計などが積極的に導入されている。このような業界全体の知能化の取り組みは、オーストリアの機械産業が高付加価値市場で競争力を維持するための重要な原動力とされている。

3) 企業の現状

オーストリアの貿易投資促進機関であるアドバンテージ・オーストリア(ADVANTAGEAUSTRIA)が、経済専門誌『トレンド(Trend)』の『オーストリア上位500社』データに基づいて発表した機械産業上位10社リストを見てみると、次のようになる。表を通じて、オーストリアの機械・装置産業の構造と主要な強み分野を把握できる。

オーストリア機械分野上位10社(2024年純売上基準)

(単位: €百万)

順位	企業名	純売上	사업 분야
1	Andritz AG	8,314	水力発電、パルプ・紙、金属加工、環境技術
2	Palfinger AG	2,360	油圧クレーン、リフティングソリューション、海洋機器
3	Engel Ludwig GmbH & Co KG	1,500	プラスチック射出成形機、工程自動化
4	Innio Jenbacher GmbH & Co KG	1,172	ガスエンジンベース熱併合発電システム
5	TGW Logistics Group GmbH	1,070	物流自動化、コンベアソーティングソリューション
6	Doppelmayr Holding SE	1,057	ロープウェイ(ケーブルカー・リフト)、都市型削除システム
7	Stihl Tirol GmbH	733	庭管理用機械、地面管理装備
8	Liebherr Werk Bischofshofen GmbH	729	Wheel Loader
9	Liebherr Werk Nenzing GmbH	703	Crawler Crane、基礎工事用機器
10	Knorr-Bremse GmbH	630	鉄道車両用ブレーキシステム、冷暖房空調システム

資料: アドバンテージ・オーストリア

圧倒的な規模で1位を占める企業Andritzは、2024年時点で83億ユーロの純売上を記録し、2位のPalfingerと大きな差を示している。同社は、パルプ・紙、水力発電、金属、環境・プロセス設備などの産業プラント及び自動化ソリューション分野で、グローバルな競争力を有する代表的なオーストリアのエンジニアリング企業である。

続いてEngel、Innio Jenbacher、TGW Logistics、Doppelmayrなどが上位に位置しており、これらの企業はそれぞれ射出成形機、分散型エネルギー設備、物流自動化、ロープウェイ・ケーブルカーシステムなど、異なる特殊分野で競争力を確保しているという特徴がある。これは、オーストリアの機械産業が単なる汎用機械中心の産業ではなく、産業別のニッチ市場に特化した高付加価値エンジニアリング企業中心の構造を持っていることを示している。

上位企業の事業分野を見てみると、最近のオーストリア製造業の主要技術トレンドであるスマート製造、オートメーション、AIベースの運用最適化、物流自動化、エネルギー転換と密接に結びついていることが確認できる。個別企業の事例を見ると、TGW LogisticsはAIベースの物流自動化ソリューションを、Innio Jenbacherへは水素対応の分散型エネルギーシステムとデジタル運用プラットフォームを、AndritzはAIベースの工程自動化及び予知保全ソリューションを拡大している。オーストリアの機械産業が従来の機械製造を超えて、デジタル化・自動化・持続可能性を組み合わせた高付加価値システム産業へと転換していることを示す好例と言える。

上位企業の多くが輸出中心のビジネスモデルを採用している点も特徴である。オーストリアの機械産業は、国内市場規模が限定的である一方、ドイツ・米国・中国などのグローバル市場を対象とした特殊設備・プラント・自動化ソリューションの輸出競争力を基盤に成長してきた。それに伴い、産業全体でも単純な生産能力よりも設計・エンジニアリング・自動化の統合能力が重要な競争要素として機能している。

現時点でオーストリアの機械・装置産業で捉えられている最大の流れを整理すると、オートメーションとスマート製造への転換加速、AI・デジタル基盤の生産運用高度化、持続可能な生産体制と資源効率の強化、そして新技術の応用分野拡大と高付加価値化が挙げられる。それぞれの内容を具体的にみると、次のようになる。

①自動化及びスマート製造への転換加速

オーストリアの第4次産業に関する議論では、生産のデジタル化は資源効率の向上、品質の向上、新たなビジネスモデルの創出、デジタル支援システムの活用、そして人材能力の要求変化へとつながる構造的転換として認識されている。それに伴い、オートメーションやデジタルの核心技術活用、製造現場の人材のデジタル能力確保が、生産拠点の競争力維持における重要な課題として浮上している。この流れは主要企業の戦略でも確認できる。代表的な例として、プラント・産業設備分野のAndritzは、コアデジタルソリューションブランドであるメトリス(Metris)を中心に、オートメーション、工程最適化、状態モニタリング、データ分析、AIベースの運用支援ソリューションを拡大している。これは、同社が提供するIIoT（産業用モノのインターネット）及び第4次産業ソリューションを網羅する上位ブランドであり、オールインワンのデジタルプラットフォームでもある。メトリスのエコシステム上で特定のハードウェアに依存せず、プロセスを直接精密に制御するメトリスX(Metris X)は、ハードウェア独立型分散制御システム(Distributed Control System、DCS)として運用される。これは単一機械の自動化からプロセス産業の統合制御ソリューションまでを網羅し、オートメーションと機械学習を組み

合わせた制御環境を提供する。単なる機械性能競争を超えて、設備運用全体を最適化するデータ駆動型統合運用能力が産業競争力の核心として浮上していることを示す好例と言える。

②AI・デジタル基盤の生産運営の高度化

デジタル化は単なる技術導入ではなく、製造業の競争力確保のための構造的転換と認識されており、データ活用能力が企業の競争力を左右する重要な要素として浮上している。射出成形機製造企業エンゲルと分散型エネルギー設備企業イェンバハーが代表的な事例として挙げられる。まずエンゲルは射出成形工程にデジタル支援システムを導入し、生産中に発生する工程変動をリアルタイムで検知し、自動で補正する。これにより、原材料の品質や粘度の変化があっても一定の製品品質を維持でき、不良率の低減、原材料の削減、生産の安定性向上といった効果が期待できる。イェンバハーの場合は、マイプラントパフォーマンス(myPlant Performance)プラットフォームを通じてエンジン運用データをリアルタイムでモニタリング・分析し、異常兆候の検知、予測に基づく保守、リモート接続、性能最適化サービスを提供する。これは、設備故障後の対応方法から脱却し、データに基づいて事前に問題を予測し、運用効率を高める方式へと転換していることを示している。単なる製品販売中心から脱却し、機器運用データを活用した保守・最適化・リモート管理サービス中心のビジネスモデルへと拡大している様子だ。

③持続可能な生産システムと資源効率の強化

持続可能な生産と資源効率性を中心とした産業構造転換の事例として、まずエンゲルが挙げられる。同社はプラスチックリサイクルと循環経済対応技術の拡大、再生原料の使用、CO₂排出削減、エネルギー効率の向上、デジタル基盤のプロセス安定化などを主要な方向性として提示している。アンドリッツもまた、オートメーションと工程最適化ソリューションを通じて、エネルギー使用の削減、原材料活用の最適化、収率改善を支援している。特に、メトリスOPP (Metris OPP)などのソリューションは、生産ラインのデータを分析し、稼働停止の削減、生産能力の拡大、品質向上、原材料やその他資源の消費削減などを目指す。持続可能性を別個の付加要素として捉えるのではなく、機械設計・制御・運用全般に内在する重要な競争力要素として統合している事例として評価されている。

④新技術の応用分野の拡大と高付加価値化

オーストリアの機械産業は、従来、汎用機械の大量生産よりも特殊用途機器、プロセス設備、カスタマイズシステムのエンジニアリングに強みを示してきたが、近年ではこれらの能力が物流、エネルギー、インフラなど多様な産業分野へと拡大している。代表的な例として、物流自動化企業のテゲベはAIとロボティクスを組み合わせた自動化システムを開発している。AIベースのピッキングシステムであるロボフレックス(RovoFlex)は、機械学習によりピッキングプロセスを継続的に改善し、個々のロボット間でデータを共有することで倉庫運営の正確性と効率性を向上させる構造で設計されている。同社はまた、メカトロニクス、ロボティクス、先進ソフトウェアを統合し、エンドツーエンド(endtoend)物流自動化ソリューション企業としての地位を確立しつつある。エネルギー分野では、イェンバハーが水素対応ガスエンジンとデジタル運用プラットフォームを通じて、分散型エネルギーシステムと低炭素発電需要に対応している。

2. 産業の需給状況

1) 市場規模と現状

前述の貿易投資振興機関アドバンテージ・オーストリアが2023年の実績に基づいて推定した2024/2025年のオーストリアの機械・設備産業の総売上は約359億ユーロで、輸出比率は約94%に達する。特殊機械部門では高い海外需要があり、工作機械分野でも世界最大の生産国の一つに位置付けられている。

現在、オーストリアの機械・設備産業は長期の低迷の後、緩やかな回復期に入っている。エネルギー価格の上昇と欧州全体の需要減少により生産増加ペースが鈍化した2023年・2024年の調整期を経て、2024年秋頃の底を通過したと分析されている。依存度の高い市場であるドイツの機械産業が長期的な低迷に陥っているのに対し、オーストリアの機械・設備産業は中型技術分野で持つグローバル競争力を基に生産水準をうまく守っている状況である。

2) 収入状況

2025年時点でオーストリアの機械・部品全体の輸入額は約265億ドルで、前年比2.5%増加した。1位と2位の輸入対象国であるドイツと中国の比率は約半分を占め、それぞれ100億ドル(37.7%)、33億ドル(12.5%)を記録した。上位10大輸入対象国のうち7か国が欧州内国で、韓国は輸入額1億2000万ドルで28位となった。

オーストリアの機械および部品(HSコード84)の輸入規模の推移(2023～2025年)
(単位：US \$百万、%)

順位	企業名	金額			比重(2025年)	成長率(25年/24年)
		2023年	2024年	2025年		
-	総計	26,790	25,823	26,465	100.0	2.5
1	ドイツ	10,323	9,717	9,985	37.7	2.8
2	中国	2,423	2,808	3,310	12.5	17.9
3	イタリア	2,193	2,014	1,949	7.4	-3.2
4	チェコ	1,398	1,539	1,553	5.9	0.9
5	ポーランド	869	876	898	3.4	2.6
6	スイス	811	776	773	2.9	-0.4
7	アメリカ	815	706	726	2.7	2.9
8	日本	861	759	640	2.4	-15.7
9	ハンガリー	649	642	623	2.4	-3.1
10	オランダ	486	466	502	1.9	7.6
20	韓国	188	112	118	0.5	5.3

資料：Global Trade Atlas 2026.5.7

3) 輸出現況

オーストリアの機械産業は代表的な輸出志向型産業である。主な輸出先はドイツ、米国、中国の順で、特にドイツ向け輸出が65億ユーロを超え、DACHおよび欧州の製造ネットワークとの緊密な連携を示している。ドイツとの産業連携が非常に強く、多くのオーストリア企業がドイツに拠点を持ち、ドイツ企業もオーストリアと密接なサプライチェーン関係を築いている。同時に、米国と中国が上位市場に含まれていることは、オーストリアの機械・設備産業が欧州内のサプライチェーンを超えて、グローバルな産業投資需要にも対応していることを示している。

オーストリア機械部門上位10大輸出対象国

(単位：€百万)

順位	国家	輸出額
1	ドイツ	6,557
2	アメリカ	3,486
3	中国	1,807
4	フランス	1,208
5	スイス	993
6	イタリア	978
7	ポーランド	907
8	イギリス	835
9	チェコ	663
10	スペイン	559

資料: オーストリア金属工業協会、'Facts & Figures 2025'

3. 進出戦略

1) SWOT 分析

オーストリアの機械産業は数年にわたる景気後退を経て、緩やかな回復傾向を示している。AIや環境に優しいエネルギーへの転換とともに、熟練労働力を基盤とした高い生産性が強みであるが、ドイツへの依存度の深化や人口構造の変化は依然として課題として残っている。

Strengths	Weaknesses
- 強小企業(Hidden Champion)をある程度保有し、高度な技術力と革新性 - EU平均を上回る高い労働生産性 - 堅固な産学連携システムを通じて優れた技術人材を輩出 - R&D投資に集中(GDPに対するR&D投資比率がEU上位に位置) - 中東欧の中心に位置する地政学的利点を活用し、該当市場への進出のための架け橋となる役割を果たす(西欧の資本と東欧の生産拠点をつなぐハブの役割)	- 限られた内需市場：人口約920万人の小規模市場で、現地生産設備の構築には輸出が不可欠 - 高度な労働に基づく産業であり、高い人件費と生産コストは避けられない - 専門人材不足：熟練エンジニアの確保が難しくなっている傾向
Opportunities	Threats
- 気候中立産業への転換が加速し、グリーンテックの需要が急増(エネルギー効率、循環経済、水素設備関連) - デジタル転換の需要が高い：AIベースの製造、スマートファクトリー、自律ロボット分野など、スタートアップと既存の中小企業間の協業需要	- 地政学的リスクによるエネルギーコストの変動性が製造業の運営コストに大きな影響を与えている状況 - 最大の貿易国であるドイツ経済への依存度が高く、ドイツ経済が縮小した際に直接的な打撃 - 保護貿易主義の強化：EU CBAMなどの環境および貿易規制

資料: アドバンテージ・オーストリア

2) 有望分野

現在、オーストリアの機械・装置産業を支援するための政策方針は、産業競争力の維持とグリーン・デジタル転換の両立に要約される。オーストリア政府は『産業戦略2035』を通じて、製造業基盤の維持、研究開発およびイノベーション能力の強化、産業立地の競争力向上を主要目標として掲げており、産業現場では自動化、スマート製造、データに基づく生産管理、持続可能な生産が主要課題として浮上している。

ただし、オーストリアの機械・装置産業はドイツに比べて規模が限定的な国内市場であり、既存のサプライチェーンと長期的な取引関係が重要な要素となるため、短期間で完成設備の大規模輸出を期待するのは現実的に難しい面がある。部品・ソフトウェアの供給、共同R&D、パイロットプロジェクトへの参加、現地パートナーシップの構築などを通じた段階的アプローチが、より効率的な戦略となり得る。有望な分野としては、スマート製造・自動化ソリューション、持続可能な生産およびEU規制対応ソリューション、物流自動化とエネルギー転換に関する機器・ソリューションなどが挙げられる。

まずスマート製造および自動化ソリューションに関しては、オーストリア企業が既存の高品質設備やプロセスエンジニアリング能力にAI、センサー、データ分析、遠隔モニタリング、予知保全機能を組み合わせる方向に転換している流れに合致する分野である。産業用センサー、マシンビジョン、ロボット部品、制御ソフトウェア、製造データ分析ソリューションなどを現地企業の設備や生産ラインに適用する形での協業機会を模索できる。

第二の有望分野として、持続可能な生産とEU規制への対応ソリューションが挙げられる。EUのエコデザイン規則、デジタル製品パスポート、ネットゼロ産業法などにより、製品データ管理、サプライチェーンの透明性、エネルギー効率、炭素排出管理の重要性が徐々に拡大している。これに関連して、デジタル製品パスポート対応ソフトウェア、エネルギーモニタリングソリューション、炭素管理システム、環境配慮素材・部品分野で現地協力需要が期待されている。

物流の自動化やエネルギー転換に関連する機器・ソリューションも注目に値する。上で見た機械部門のさまざまなオーストリア企業は、デジタル化と低炭素転換を積極的に推進している。モバイルロボット、マシンビジョン(Machine Vision)、倉庫管理ソフトウェア、バッテリー・電力変換装置、エネルギー管理システムなどは、技術供給や共同開発パートナーシッププロジェクトの実現可能性が高い分野とされている。

資料：Statista、オーストリア統計局(Statistik Austria)、オーストリア金属技術産業協会(FMTI)、アドバンテージ・オーストリア、経済専門誌トレンド、KOTRAウィーン貿易館資料総合(作成支援：イ・イエナ)(著作権者：© KOTRA & KOTRA 海外市場ニュース)

(Kotra 6月12日付)

https://dream.kotra.or.kr/kotranews/cms/news/actionKotraBoardDetail.do?SITE_NO=3&MENU_ID=200&CONTENTS_NO=1&bbsGbn=403&bbsSn=403&pNttSn=241392

◆ドイツ工作機械業界、2026年第1四半期に受注が増加

3年間にわたる厳しい状況を経て、ドイツ工作機械業界はようやく一息つくことができた。2026年第1四半期の受注額が15%増加した。とはいえ、状況は依然として予断を許さない。生産、輸出、雇用は減少を続けており、中東情勢の緊迫化が不確実性とコスト増大を招き、投資意欲を削いでいる。「状況は底を打ったように見えるが、トレンドを反転させるには程遠い状態である。この回復が持続的なものとなるかどうかは、今後数ヶ月の動向次第だ」と、VDW(ドイツ工作機械工業会)の経済・統計部門責任者であるベルンハルト・ガイス氏は現状について述べた。

受注増加には、海外・国内からの受注がそれぞれ14%、18%と、ほぼ同等の割合で寄与している。しかし、これらの数字が全体像を正確に反映しているわけではない。特に国内市場においては、比較の基準となる数値(ベースライン)が低い状態にある。さらに、単発の受注やプロジェクト案件が重要な役割を果たしているものの、需要全体が明確に回復しているわけではない。サービス事業やレトロフィット(既存設備の改修・更新)事業は、引き続き安定化の要因となっている。同時に、セクターによって状況は大きく異なります。航空宇宙、防衛、医療技術、エレクトロニクス分野は好調な動きを見せている一方、金属加工や機械工学、そして特に自動車および自動車部品産業は依然として低迷している。

ドイツ工作機械業界の状況は依然として厳しいものである。2026年第1四半期の生産額は11%減の28億ユーロとなった。国内販売は13%減少し、10%減となった輸出よりもさらに悪い結果となった。地域別に見ると状況はまちまちで、米国が成長を牽引(+8%)しているのに対し、欧州は大きく遅れをとっている(-11%)。アジア向け輸出は18%減少したが、これは主に中国向け輸出の急減(-32%)によるものである。価格競争が激化する中、現地生産拠点を持つドイツの製造業者の間では、「ローカル・フォー・ローカル(地産地消)」が重要なキーワードとなりつつある。インドは急成長を遂げており、市場規模で第3位の地位にまで浮上した。輸入も8%減少し、年初3ヶ月間の動向はドイツ市場の低迷を反映したものとなった。しかし、国内販売と比較すれば、輸入の推移は幾分良好でした。特に日本メーカーは、ドイツ国内での販売を伸ばすことさえできた。全体として国内消費は10%減少し、ドイツにおける投資意欲の低さが裏付けられる結果となった。

企業の設備稼働率は低下を続け、直近の数値は73%となった。必要な生産能力の調整は、現在、雇用者数の変動にはっきりと表れている。3月時点での業界の雇用者数は6万600人で、前年比で9%近く減少した。

ベルンハルト・ガイス氏は次のように結論付けている。「第1四半期の受注増加は重要な指標ではあるが、これで懸念が完全に払拭されたわけではない。安定した上昇傾向に向かうには、投資に対する信頼感の高まりと、より確実な経済情勢が必要となる。」

(VDW Press Release 2026年6月23日付)

◆海外業界ニュース：メキシコ、ブラジル

メキシコとブラジルで相次ぐ投資発表は、両国の製造業経済が依然として多くのグローバル企業から資本を呼び込んでいることを浮き彫りにしている。メキシコでは自動車および航空宇宙分野のサプライチェーンが牽引役となっており、一方のブラジルではデジタルインフラ、アグリビジネス、先端素材分野への投資が集まっている。

メキシコ：自動車産業の厚み、航空宇宙への野心、そして GM の計算された動き

メキシコの自動車セクターは、好調な状態で2026年を迎えた。第1四半期の自動車部品生産額は過去最高を記録し、2025年同期比で10%近く増加した。1月から5月までの総生産台数は164万台に達したが、5月の生産台数が前年同月比でわずかに減少し、勢いにやや陰りが見られた。しかし、堅調な国内需要と地域的なサプライチェーンの深い統合が、引き続き輸出の強さを支えている。最大の輸出先は依然として米国である。安定した貿易黒字は、北米における自動車製造の重要拠点としてのメキシコの地位を強固なものにしている。

ゼネラルモーターズ(GM)は最近、「アベオ(Aveo)」および「グルーブ(Groove)」モデルの生産を中国からコアウイラ州ラモス・アリスぺ工場へ移管すると発表した。この動きは、近年において最も戦略的に重要な決定の一つと言える。10億ドルの投資を背景に、同工場は2030年までにメキシコ国内市場向けに年間8万台を生産することを目指している。この移管の主な要因としては、米国・メキシコ・カナダ協定(USMCA)などの貿易政策の変化、サプライチェーンの強靱化に向けた取り組み、そして地政学的リスクや物流上の課題を軽減するためのニアショアリング(近隣国への生産移管)への圧力の高まりが挙げられる。この決定は、世界の自動車製造における地政学的な再編を反映したものである。メキシコは、北米向け車両の生産において、中国に代わる有力な選択肢として台頭している。

サプライチェーンへの投資も続いている。クロムベルグ&シュューベルト (Kromberg & Schubert) は、BMWやメルセデス・ベンツのプログラムを支援するため、グアナフアト州での事業拡大に2,600万ドルを投資する。アディエント (Adient) は、コアウイラ州モンクロバの工場拡張に1,000万ドルを投じ、今後2年間で1,500人以上の雇用を創出する見込み。横浜ゴムは、サルティヨにおけるオフロードタイヤ製造の第2工場に1億1,500万ドルを投資する。この工場は、北米の鉱業、建設、農業分野に製品を供給することになる。CELO社はグアナフアト州に新工場を開設し、自動車、電子機器、医療、産業機器向けに年間最大2億5,000万本のねじを生産する体制を整えた。

ケレタロ州は、多方面からの投資を呼び込み続けている。ヒルシュフォーゲル (Hirschvogel) 社は、同州にあるアルミニウム鋳造・鍛造・機械加工施設の拡張を進めている。メキシコの製造企業コブレンツ (Koblenz) 社は、国内外の需要拡大を背景に、8,000万ドルを投じて同地での生産能力を倍増させている。スペインの航空宇宙企業ITPエアロ (ITP Aero) 社は、2022年以降売上高を倍増させ、年率10%の成長を遂げている。同社は、ラテンアメリカで唯一となる専門的な試験施設の近代化と拡張に570万ドルを投資している。ケレタロ州におけるこうした動きは、同州が自動車、航空宇宙、産業技術への投資が交差する戦略的な拠点であることを示している。

ヌエボ・レオン州でも同様の動きが見られる。サンゴバン (Saint-Gobain) 社は、サンタ・カタリナとアポダカにある同社の工場群全体で8億5,000万ドルを投資している。これは同州の製造基盤に対する近年の投資案件としては最大級のものであり、世界の素材メーカーからの継続的な関心を示すものである。GEエアロスペース (GE Aerospace) 社は、エルモシージョとサルティーヨにある施設に約3,800万ドルを投資している。この投資は、世界の顧客への納入体制を強化するため、新しい機械、金型、機器の導入に充てられる。

ズームライオン (Zoomlion) 社は、アグアスカリエンテス州にラテンアメリカ向けのトレーニングセンターおよび農業機械の組立施設を開設した。クリック・テクノロジー (Click Technology) 社は、トレオンに1,850万ドル規模の工場を建設すると発表した。この新施設は、ラ・ラグナ地域における電子機器のサプライチェーンを強化するものとなる。

ブラジル：デジタルインフラ、持続可能な燃料、アグリビジネス

この期間におけるブラジルへの投資は、いくつかの主要分野に及んでいる。中でも最も注目を集めているのがデジタルインフラ分野である。Google Cloudは、同国におけるデータセンターの拠点を拡大している。この動きは、ラテンアメリカ全域でハイパースケーラー（大規模クラウド事業者）による投資が拡大している流れと合致するものである。クラウドコンピューティングやAI関連の処理に対する需要の高まりが、この傾向を後押ししている。ブラジルのデジタル経済は、データセンター建設に対する税制優遇措置や、世界の投資家に確実性をもたらす明確なデータ保護規制といった、近年の政府による支援策の恩恵も受けている。さらに、ブロードバンド網の拡大や全体的な接続性の向上を図るため、官民連携 (PPP) も推進されている。Amazon Web Services (AWS) は、ブラジル、メキシコ、チリに対して110億ドル以上を投資する可能性がある。これが実現すれば、ラテンアメリカのテクノロジー分野における大規模なインフラ投資となる。こうした動きは、ブラジルとその近隣諸国が、単なる新興の消費者市場としてではなく、本格的なデジタルインフラ市場として見なされていることを示している。

(AMT ONLINE 2026年6月23日付)

◆海外業界動向：中国

2026年上半年期、中国の製造業は世界市場において、明確かつ持続的な強さを発揮している。国内での緩やかな業界再編が進む一方で、各分野の工場は力強い輸出実績を上げており、国際的な適応力と主導力を証明している。AMT(米国製造技術工業協会)の会員企業にとって、この環境は、生産の高度化、設備の刷新、そして世界市場への進出を図る中国の製造業者を支援する絶好の機会となる。

油圧ショベル：堅調なインフラ投資を示す力強い成長

2026年5月の油圧ショベル販売台数は、前年同月比36.2%増の24,794台に達した。内訳は、国内販売が38.6%増の11,628台、輸出が34.2%増の13,166台であった。これらの数字は、国内需要の力強い回復と世界的な需要の高まりを浮き彫りにしている。

1月から5月までの累計販売台数は、前年同期比24.7%増の126,875台となった。国内販売は18.5%増の68,127台、輸出は32.9%増の58,748台を記録した。特筆すべきは、中国が戦略的に推進する「グリーン製造(環境配慮型製造)」の一環である電動油圧ショベルの普及が進んでいる点である。同期間の販売実績は、国内で121台、輸出で101台に上った。こうした傾向を後押ししているのは、建設機械の更新サイクルの加速、主要インフラプロジェクトの本格化、そしてアフリカや南米の新興国市場からの旺盛な需要である。これらのデータは、中国の建設機械メーカーが国内需要を満たしつつ、世界市場で大きなシェアを獲得していることを示しており、同業界の活力を物語る健全な兆候と言える。

工作機械：市場の動向に適應する健全な産業

中国の工作機械業界は、堅調な基盤を維持しつつ、過渡期を歩んでいる。中国工作機械工業協会(CMTBA)によると、2026年1月から4月までの工作機械の輸出入総額は前年同期比6.4%増の112億7,000万ドルに達した。その内訳は、輸入が5.4%増の35億3,000万ドル、輸出が6.9%増の77億4,000万ドルとなっている。こうした貿易活動は、同業界が世界市場との関わりを維持し、高い競争力を保っていることを反映している。金属切削工作機械の輸出額は19億4,000万ドル(1.7%増)、金属成形工作機械の輸出額は10億8,000万ドル(1.1%増)に達した。成長率は緩やかだが、中国の製造業者が量よりも質を重視していることを示している。こうした高精度化・高度化への移行は、先端機器サプライヤーに新たな機会をもたらしている。中国の生産者が、単なるコスト競争ではなく技術力で世界と競うために、次世代の能力強化に向けた投資を行っているからである。特に、高精度CNCシステム、高度な自動化ソリューション、AIを活用した工程最適化、産業用ロボット、スマートマニュファクチャリング・プラットフォームへの需要が高まっている。また、高速主軸(スピンドル)、多軸加工、デジタルツイン技術、リアルタイム生産監視といった分野では、技術的なギャップ(格差)も顕著である。

自動車：輸出における圧倒的地位とEV分野での主導権

中国の自動車産業は、世界的に目覚ましい競争力を発揮している。工作機械の傾向と同様に、5月の国内自動車販売台数は市場の正常な調整局面を反映し、前年同月比20.4%減の170万台となった。しかし、輸出は力強い動きを見せており、5月の輸出台数は前年同月比68.7%増の93万台に達した。この急増は、中国製自動車に対する世界的な需要の高まりを反映しており、中国を世界の自動車大国としての地位に押し上げている。

この動きを牽引しているのが電気自動車(EV)である。5月のEV生産台数と販売台数はそれぞれ155万台と150万台に達し、前年同月比で22.4%および14.4%増加した。現在、EVは新車販売全体の56.9%を占めている。これは、世界で最も急成長している自動車セグメントにおいて、中国が技術的な主導権を握っていることを裏付けている。1月から5月までの累計では、EVの生産台数と販売台数はそれぞれ584万台と580万台となり、前年同期比で2.5%および3.5%増加した。同期間の自動車輸出総数は前年同期比63%増の406万台に達し、中国の製造業者が規模を拡大し、世界市場で競争する能力を備えていることを改めて示している。製造業や工作機械分野の成長に続くこの自動車輸出ブームは、精密機器、自動化システム、そして高度な製造技術に対する大きな需要を生み出している。

投資の勢い：高度な製造分野への資本流入

投資活動に目を向けると、最近の発表からは中国の製造業の将来に対する自信がうかがえ、同セクターが引き続き多額の資本を必要とする産業であることが示されている。技術の進歩と輸出競争力の強化に向けた同国の継続的な取り組みを裏付ける、注目すべきプロジェクトがいくつかある。

- 杭州臨平智能装備(Hangzhou Linping Smart Equipment)は、2,060万ドルを投じて年間800台のCNC(コンピュータ数値制御)工作機械を生産する体制を構築している。同社は、国内における近代化のニーズと輸出市場の双方をターゲットとしている。
- 自動車部品メーカーの双林(Shuanglin)は、輸出志向型メーカーの自動化ニーズの高まりに応えるため、産業用ロボット向けのボールねじやジョイントモジュールの製造に7,140万ドルを投資している。
- 安徽碧奇液圧(Anhui Biqi Hydraulic)は、横型中ぐり盤、ボール盤、ホーニング装置などの設備を導入し、年間生産能力10万基を誇る油圧シリンダー生産ラインに1,470万ドルを投資している。
- 鼎恒盛ガス設備(Ding Heng Sheng Gas Equipment)は、精密製造を支えるための高度なマシニングセンタや中ぐり盤を導入し、ダイヤフラム式コンプレッサの生産施設に2,900万ドルを投資している。
- 塩城坤陽(Yancheng Kunyang)は、放電加工機(EDM)、ワイヤーカット機、その他の加工設備を導入し、精密金型施設に7,400万ドルを投資している。

これらのプロジェクトは、中国の製造業者が依然として自信と十分な資金力を持ち、生産能力の高度化に尽力していることを如実に示している。

動き続ける市場

2026年の中国製造業は後退しているわけではなく、世界的な競争力を維持・強化するための再編の途上にある。好調な輸出実績、EV(電気自動車)の普及拡大、堅調なインフラ投資、そして継続的な設備投資が背景にあり、これらすべてが、活気に満ち、革新的で成長を続けるセクターであることを示している。国内市場の再編・統合は、市場の成熟に伴う自然な結果であり、決して衰退の兆候ではない。

(AMT ONLINE 2026年7月13日)

◆韓国工作機械、AI・半導体ブームに乗り、1～4月に1.2兆円の受注

DC冷却装置・半導体装置等海外受注が23%増加し、業績を牽引

国内の工作機械産業の受注規模は、グローバルな人工知能(AI)産業の拡大に支えられ、大幅に増加したことが明らかになった。

22日、韓国工作機械産業協会によると今年の1～4月の工作機械総受注額は1兆1,924億ウォンで前年同期間と比べて11.2%増加した。海外受注は7,981億ウォンで23.3%急増し、成長を牽引した。

4月の受注額は3,165億ウォンで、前年同月比で9.8%増加した。海外受注は2,028億ウォンで、昨年同月と比較して25.7%増加した。

協会は、国内メーカーの設備投資は慎重な姿勢を示しているものの、世界的な需要が国内工作機械業界の業績を牽引していると分析した。最近、世界の主要国でAI産業の拡大に伴うデータセンター投資の拡大や半導体生産能力の増強など、新しい先端産業の製造業投資が急速に増加しているためだ。

協会の関係者は「データセンターの冷却装置や半導体検査装置などの需要が増加する中、これに対応する超精密加工に必要な工作機械の利用も増えている」と説明した。

さらに米国・中国・インドなど主要国が自国の製造業育成政策を積極的に展開し、設備の高度化に注力することで、追加需要を喚起している。

工作機械業界は下半期もこのような輸出中心の成長が続くと期待している。協会の関係者は「最近の工作機械市場は、内需よりも輸出が産業回復を牽引する構造が顕著だ」と述べ、「AIインフラの整備と半導体・自動車・航空宇宙産業の設備投資拡大が、韓国の工作機械産業にとって新たな成長機会になるだろう」と見通した。

協会は会員企業から毎月受注状況を集計し、統計を作成・公開している。そのうち海外受注は生産工程を経て、数か月後から税関の工作機械輸出統計に反映される。

(ソウル経済新聞 6月22日付)

◆欧州通商政策動向

炭素国境調整メカニズム(CBAM)；最近の動向

- 欧州委員会が2025年12月に提案したCBAMの対象拡大提案をめぐり、EU理事会は6月12日に自らの立場に合意した。理事会は、対象製品の範囲を調整するとともに、将来的に追加される可能性のある下流製品について年次見直しを行うことを提案。また深刻かつ予見不能な状況が発生した場合にCBAMの義務を一時的に免除する規定を導入する第27a条については、規定自体を維持しているものの、概念の明確化・規定内容の具体化を支持しており、欧州委員会による2段階手続きの導入を提案している。なお、欧州議会での立場の採決(総会)は9月に予定されている。

EU理事会リリース、欧州委員会ニュース

- 欧州委員会は5月7日に開催したCBAM実施に関するウェビナーの追加資料を6月11日に公開した。ウェビナーでは、組込み排出量の算定に関連する機能単位や多機能生産プロセスの設定、前駆物質の組込み排出量の算定、およびシステム境界の定義など、移行期間と本格適用期間(2026年1月～)の主な変更点に焦点を当てた解説が行われた。

欧州委員会ニュース

REACH の近代化・簡素化に向けた EU 理事会での議論

EU理事会は6月12日、REACH規則の今後の方向性に関する覚書を公表した。6月25日に開催予定の環境理事会での議論に向けた準備資料となる。欧州委員会は現在の任期中にREACH規則改正を行わないことを決定している。これを受け理事会会合では、REACH規則を改正せずに、コミットロジー（欧州委員会の内部手続き）を通して、どのように近代化・簡素化できるかが検討される。EU理事会は以下を検討課題として挙げている：

- 改正CLP規則で導入された新たな危険性分類を反映した登録データ要件の更新
- 安全データシート (SDS) の調和およびデジタル化、同規則の適用手続きの簡素化
- 第三国から輸入される物質および製品のコンプライアンス上のギャップへの対処

(EU理事会文書 2026年6月12日)

PFAS：ロスウォール欧州委員がハイレベル対話を開催

欧州委員会のロスウォール委員は、6月15日、PFAS汚染問題をめぐり関係者を集めたハイレベル対話を開催した。NGO、影響を受ける地域社会、研究者、水・廃棄物処理事業者、PFASの製造・使用者、およびPFAS代替品の使用者など、20名以上が参加した。PFASの発生源や環境・健康への影響から、モニタリング、浄化手段、代替および段階的廃止に必要なイノベーションに至るまで、PFAS問題のあらゆる側面について議論した。

(欧州委員会(環境総局)ニュース 2026年6月15日)

AI 法；最近の動向

- 欧州委員会がデジタルオムニバスの一環として2025年11月に提案し、2026年5月にEU理事会と欧州議会が暫定合意したAI法の簡素化をめぐり、欧州議会は6月16日の総会にて合意文書を採用した。EU理事会の公式な承認を経た後に官報に掲載され発効する。

欧州議会リリース

- 欧州委員会は、6月10日、AI法に基づくAI生成コンテンツの表示・ラベル付けに関する行動規範の最終版を公表した。この行動規範は、AIプロバイダー・導入者が、2026年8月2日から適用されるAI法の透明性関連規定を遵守するために任意で使用可能なもので、実践的な手順を定める。また、欧州委員会は行動規範に対するAIプロバイダー・導入者による署名を現在受け付中である。なお欧州委員会は今後、AI法の要件の範囲を明確にし、本規範でカバーされていない側面に対処することを目的とした補足ガイドラインも公表予定である。

欧州委員会リリース

- 欧州委員会は5月19日から実施している、AI法に基づく高リスクAIシステムの分類に関するガイドライン案の意見募集の締め切りを、当初の予定(6月23日)から7月23日まで延期した。同ガイドラインは、AIシステムの提供者および導入者が、AI法の適用において自らが「高リスク」に該当するかどうかを評価する際の支援を目的とする。最終的なガイドラインの採択は、2026年末までに予定されている。

公開協議ページ

独仏が「デジタル主権」に関する共同文書を発表

フランスとドイツは、パリで開催されたVivaTechに際し、デジタル主権に関する共同文書を発表した。同文書は、「デジタル主権」を「EU、国家、行政機関、または民間組織が独立して行動し、そのプロセスや活動に関して最終的な意思決定権を持つ能力を強化するために、ハードウェアを含むデジタル技術を、独立した自主的かつ安全な方法で開発・提供・利用・適応・管理する能力と力量」と定義している。その上で、デジタル技術や資源におけるEUの第三国への重大な依存関係を軽減する必要性を強調しながらも、この目標を信頼できる国際的なパートナーとの継続的な協力を通じて達成する必要性を強調している。なお、6月13日には米国がAnthropic社の最新AIモデルへの外国人へのアクセスを禁止したこともあり、イベントではドイツのデジタル変革・政府近代化担当連邦大臣が、「これはもはやアクセスに関する議論ではない。ルールは一夜にして変わる可能性があり、主権とは、そのような事態が発生しても我々が依然として行動できることを意味する」とコメントした。

(共同文書、Euronews記事 2026年6月17日)

◆米国製造業：貿易政策から産業政策へ

最近、ワシントン発の製造業に関するニュースが減ったと感じているのは、あなただけではない。関税の発表、調査、司法判断、貿易交渉などが何ヶ月も続いた後、現在は異例なほど静かな状況にある。

しかし、貿易関連のニュースが減少している裏で、より重要な変化が進行している可能性がある。それは、ワシントンの関心が貿易政策から産業政策へと移行しつつあるということである。

ここ1年ほど、ワシントンにおける製造業政策は、関税、調査、司法判断、貿易交渉といった話題が中心を占めてきた。IEEPA (国際緊急経済権限法)に基づく関税の行方、新たに検討された通商法122条に基づく関税、通商拡大法232条に基づく調査、あるいは主要貿易相手国との継続的な交渉など、議論の主役は常に貿易政策であった。

貿易は依然として重要だが、政策立案者の関心は、より困難な課題、すなわち「米国の製造能力をいかに再構築するか」へと移りつつある。

最近のいくつかの動きは、単なる貿易政策ではなく、産業政策への関心が高まっていることを示している。その一例が、ホワイトハウスが最近開催した工作機械および先端製造業に関する円卓会議である。AMT(米国製造技術工業協会)はこの議論に参加する機会を得た。この会議には業界のリーダー、政府関係者、投資家が集まり、同セクターが直面する課題と機会について検討が行われた。議論の中心は関税そのものではなく、国内の生産能力、投資、サプライチェーンの強靱性(レジリエンス)、そして長期的な競争力に置かれた。工作機械こそが経済的競争力と国家安全保障の双方にとって不可欠な基盤であると長年主張してきた業界にとって、この議論は注目に値するものであった。

同様の転換は、複数の連邦機関でも起きている。中小企業庁(SBA)は、「メイド・イン・アメリカ」融資保証や関連する融資イニシアチブを通じて、製造業向けの資金調達プログラムを拡充した。国防総省は、民間の製造リソースを活用して急激な需要増に対応する生産能力(サージ生産能力)を強化することを目的とした「民間予備製造ネットワーク(Civil Reserve Manufacturing Network)」の導入を開始している。同時に、防衛関連の製造、先端生産技術、そして産業基盤の近代化に対する連邦政府の投資も拡大を続けている。

だからといって、貿易政策が不要になるわけではない。製造業者は依然として、ロボット工学および産業機械に関する通商拡大法232条調査の結果を待っており、主要な貿易相手国との交渉も続いている。世界市場や先端製造技術へのアクセスは、今後も業界にとって極めて重要な課題であり続けるであろう。

しかし、そこには重要な違いがある。国内産業を保護することと、国内の生産能力を拡大することは、決して同じことではない。関税は調達に関する意思決定に影響を及ぼし得るが、工作機械メーカーや自動化関連企業、熟練労働者、生産能力、あるいはサプライチェーンといったものを一夜にして生み出すわけではない。それらを実現するには、投資や長期的な計画、そして産業界と政府による継続的な連携が不可欠である。

現在の取り組みが最終的にそうした目標を達成できるかどうかは、まだ何とも言えない。しかし、貿易制限や関税政策への対応に多くの時間を費やしてきた1年を経て、ワシントン(政府・議会)は現在、製造能力そのものをいかに強化するかという議論により多くの時間を割くようになっている。製造業者にとって、この方向性の変化こそが、より重要な議論と言える。

(AMT ONLINE 2026年6月23日)

◆米国通商政策動向：少額免税措置の廃止

米国税関・国境警備局(CBP)は、少額輸入品に対する少額免税措置を恒久的に廃止する2つの暫定最終規則を発令し、輸入業者、運送業者、電子商取引事業者、通関業者、郵便事業者向けに新たな運用枠組みを確立した。

2026年6月24日発効となるこれらの規則は、郵便および非郵便経路で米国に輸入される商品に対する800ドルの少額免税措置を無期限に停止する。規則に関するパブリックコメントの提出期限は2026年7月24日。

非郵便輸送については、CBPは国際郵便ネットワーク以外の輸送手段で到着する800ドル以下の商品に対する少額免税措置を停止するよう規則を改正した。

その結果、これらの貨物はCBPの適切な輸入手続きに従って処理され、適用されるすべての関税、税金、手数料の対象となる。

国際郵便ネットワークを通じて輸入される商品には、別途暫定最終規則が適用される。この規則は、800ドル以下の郵便物に対する少額免税措置を無期限に停止し、2,500ドル以下の対象となる郵便物については新たな非公式輸入手続きを導入する。さらに、CBPは非公式輸入手続きにおける新たな保証金およびデータ提出要件を導入した。少額免税措置の停止は2026年6月24日に発効したが、CBPは新たな非公式輸入手続きに関連する一部の要件について、2026年10月22日を遵守期限として設定した。

CBPは、これらの規制変更は、違法薬物、偽造品、その他の法令違反商品の輸入に関連する歳入徴収の強化、税関執行の強化、および公共の安全上の懸念への対処を目的としていると述べている。同機関は、少額免税措置を部分的に維持することは、引き続き脱税や迂回の機会を生み出す一方、郵便および非郵便の両方の経路で免税措置を廃止することは、より一貫した執行を促進し、輸入経路間の格差を縮小すると結論付けた。

暫定最終規則は、少額免税制度を段階的に縮小し、最終的に廃止してきた一連の行政措置および立法措置に基づいている。2025年、トランプ大統領はすべての国からの低額貨物に対する無税少額免税措置を停止し、この政策は2026年2月にも継続されました。その後、議会は少額免税措置の法的根拠を廃止する法案を可決し、2027年7月1日に施行される予定。

コンプライアンスに関する考慮事項

新規則は、低額貨物の輸入コンプライアンス義務を大幅に変更する。輸入業者は、これまで少額免税措置の対象となっていた貨物について、通関手続き、関税分類表(HSコード)、原産国証明書類、関税計算プロセス、郵便データ送信方法、税関保証、通関業者への指示などを見直し、更新する必要がある。

電子商取引プラットフォーム、消費者直販小売業者、その他少額輸入に依存する企業は、着地価格計算、顧客価格設定、返品ポリシー、仕入先契約、および輸入コンプライアンスプログラム全般についても再評価する必要がある。少額免税措置の無期限停止に伴い、少額貨物も高額輸入と同様の税関コンプライアンス要件の対象となり、サプライチェーン全体における管理・規制上の要件が大幅に増加する

(Global USA 2026年7月6日)

◆米国通商政策動向：米国におけるコネクテッドカー事情

浙江吉利控股集团傘下のスウェーデン拠点の電気自動車メーカー、ポールスターは、米国商務省がコネクテッドカーのセキュリティ規制に基づく米国での販売継続認可申請を却下したと発表した。

この決定は、同じく吉利傘下の自動車メーカーであるボルボ・カーズとは対照的だ。ボルボ・カーズは先日、商務省情報通信技術サービス局(OICTS)から、ボルボ・カーUSAが米国でコネクテッドカーの輸入・販売を継続できるという特別認可を取得したことを公表した。

こうした結果の違いは、特別認可プロセスが単なる形式的な手続きではなく、積極的な規制審査であることを示している。ポールスターによると、米国商務省産業安全保障局(BIS)は、同社が2027年モデル以降、米国でコネクテッドカーの販売を継続するための申請を却下した。コネクテッドカー規制は、中国またはロシアとの関連性が十分にあるとみなされる、対象となる接続技術または自動運転技術を搭載した車両の輸入および販売を制限するものである。

この規制は、車両ソフトウェア、リモート接続、データ収集、および外国の敵対勢力によるコネクテッドカー技術の潜在的な悪用に関する米国の国家安全保障上の懸念を反映している。

この却下により、ポールスターは2027年モデル以降、米国での車両販売を中止せざるを得なくなる。ただし、同社は、既存のポールスター3およびポールスター4の在庫の販売は継続し、既存のサービスネットワークを通じて米国の顧客に対するアフターサービスとサポートを維持すると表明している。最新の情報に基づくと、ポールスターの米国における導入台数は約38,000台と推定されますが、同社は正確な数字を公表していない。

今回の決定は、商務省がコネクテッドカーの認可プロセスをどのように実施しているかを示す重要な指標となる。中国による所有または支配は、必ずしも認可拒否の根拠となるわけではないが、ポールスターとボルボの対照的な結果は、OICTS（情報通信技術サービス局）が認可を与える前に、申請者のコーポレートガバナンス構造、ソフトウェアアーキテクチャ、サイバーセキュリティ対策、データ管理慣行、サプライチェーン保証について個別に評価を行っていることを示唆している。

コンプライアンスに関する考慮事項

ポールスターの決定は、コネクテッドカー規制が、自動車メーカーとサプライヤーにとって重大な商業的影響を及ぼす、ケースバイケースの認可制度へと進化していることを改めて示している。

中国による所有またはサプライチェーン上のつながりを持つ企業は、同等のメーカーが認可を受けているという理由だけで、認可が下りると安易に考えるべきではない。その代わりに、申請者は、強固なガバナンス、安全なソフトウェアおよびデータ管理フレームワーク、効果的なサイバーセキュリティ対策、そして商務省の国家安全保障審査を満たすことができる透明性の高いサプライチェーンリスク軽減策を実証する準備をしておく必要がある。

申請却下後、ポールスターは欧州市場への戦略的注力を強化すると発表し、2026年第1四半期の小売売上高の94%が米国以外で発生したことを指摘した。

(Global USA 2026年7月6日)

◆米国通商政策動向：USMCA 延長の否決

トランプ政権が米国・メキシコ・カナダ協定(USMCA)を現行の形で延長しないと決定したことは、製造業者や業界団体に懸念を引き起こしている。彼らは、協定をめぐる不確実性が続くことで、大規模な設備投資が遅れ、長期計画が混乱し、北米サプライチェーンの近代化に向けた取り組みが阻害される可能性があると主張している。

米国通商代表部(USTR)は、カナダおよびメキシコ当局者とのオンライン会議後、米国が現行の形で協定を更新しないことを発表した。USTRは、協定の欠点と根強い二国間貿易赤字に対処するため、米国はカナダおよびメキシコとの協議を継続すると述べた。政権高官はまた、トランプ大統領は協定からの完全離脱の選択肢を保持しているものの、将来的な更新の可能性は残されていると示唆した。

業界はより確実な対応を求める

この決定は、統合された北米サプライチェーンに依存する米国の業界団体に大きな懸念を引き起こしている。

全米電気機器製造業者協会(NEMA)は、USMCAの延長が、大規模な製造業投資を支えるために必要な長期的な安定性をもたらすと強調した。NEMAの国際貿易政策担当シニアディレクター、パトリック・ロザダ氏は、同協会の会員企業が今後5年間で約600億ドルの投資を計画しており、安定した貿易ルールがこれらの投資決定の根幹をなすと述べた。ロザダ氏によれば、長期的な安定性が欠如すると、製造業者は急速に増加する電力需要に対応するために必要な大規模生産能力への投資をより困難にするだろう。

サービス産業連合も同様に、USMCAの維持・延長を政権に強く求めた。同連合のクリスティン・ブリス会長は、USMCAをサービス、投資、デジタル貿易における世界的なベンチマークと位置づけた。彼女は、国境を越えたデータフローを規定する条項や、強制的なデータローカライゼーションに対する保護措置が、米国のサービス産業とデジタル産業の成長を支える上で重要な役割を果たしており、それがひいては米国の製造業と農業の競争力強化につながっていると強調した。同団体はさらに、協定の三国間構造を維持することが、北米全域の企業、労働者、投資家にとって規制の確実性と予測可能性を維持するために不可欠であると主張した。

米国国際ビジネス協議会(USCIB)も同様の懸念を示した。最高経営責任者(CEO)のホイットニー・ベアード氏は、USMCAは北米を世界で最も競争力のある経済圏の一つとしての地位を強化したと述べた。

北米全域で利用される技術規格を策定し、300社以上の米国電気機器メーカーを代表するNEMAは、USMCAの複数年延長を一貫して提唱してきた。

ロザダ氏によると、米国電気機器部門の輸出の40%以上がカナダとメキシコ向けであり、メキシコは業界最大の輸出市場となっている。同時に、米国の電力需要は2050年までに約55%増加すると予測されており、強靱で統合された地域サプライチェーンの必要性が高まっている。同氏は、長期的な貿易の確実性の欠如は、メーカーが多額の設備投資を行うことを困難にし、調達戦略、生産計画、投入コスト管理に継続的な不確実性をもたらすと警告した。

NEMAは、協定の延長に加え、現在のUSMCA見直しプロセスにおけるいくつかの優先事項を特定した。これには、メキシコが貿易における技術的障壁を削減するという約束を完全に履行すること、特に長らく遅れていた品質インフラ法を制定すること、そして1962年通商拡大法に基づく通商拡大法第232条関税とUSMCAの貿易条項との相互作用についてより明確化することが含まれる。

4月、NEMAはカナダ電気連盟およびメキシコ電気機器製造業者全国会議所とともに、USMCAの更新を支持する三者共同書簡を発表し、北米の製造業統合、電力網の近代化、そして積み替え防止に向けたより強力な取り組みの重要性を強調した。

ロザダ氏はまた、USMCAを個別の二国間協定に置き換えるのではなく、単一の三者協定を維持することを支持すると表明し、現代の製造サプライチェーンは原材料生産、加工、部品製造、最終組立を含む統合ネットワークを通じて、通常3カ国すべてにまたがっていると指摘しました。同氏の見解では、三者間の確実性を維持することが、米国の製造能力への長期的な投資を維持するために不可欠である。

幅広い業界からの支持

米国、カナダ、メキシコの繊維、アパレル、履物、小売業界を代表する連合体も同様に、政策立案者に対し、USMCAの三国間枠組みを維持するよう強く求めた。

小売業界リーダー協会やカナダ小売評議会などの団体は、7月1日付の書簡で、USMCAは雇用、投資、地域貿易を支援するために必要な予測可能な法的枠組みを提供すると同時に、不必要な貿易混乱や事業の不確実性のリスクを軽減すると主張した。

カナダ自動車部品製造業者協会のフラビオ・ボルペ会長も同様に、政権による協定更新拒否の決定はUSMCAからの脱退を意味するものではないと指摘した。同会長は、協定は現行期間の延長拒否決定後も交渉を継続することを明示的に想定しており、米国はカナダおよびメキシコとの関係を維持していると強調した。さらに同会長は、政権が意図的に協定の脱退条項を発動せず、既存の三国間枠組み内で交渉を継続することを選択したと指摘した。

USMCAは依然として有効だが、政権による協定更新拒否の決定は、北米にサプライチェーンを持つ企業にとって新たな不確実性をもたらす。製造業者、輸入業者、輸出業者は、現在進行中の見直しプロセスを注視する必要がある。交渉の結果、原産地規則、貿易の技術的障壁、デジタル貿易条項、通関手続き、USMCAの優遇措置と通商拡大法232条またはその他の関税措置との相互作用に大きな変更が生じる可能性があるためである。

北米で長期的な製造戦略または調達戦略を持つ企業は、将来の改正、あるいは米国による協定からの離脱の可能性が、設備投資決定、サプライヤー契約、生産計画、地域サプライチェーン設計に及ぼす潜在的な影響を評価する必要がある。

(Global USA 2026年7月6日)

3. 工作機械関連企業動向

◆ thyssenkrupp と GlobalLogic がフィジカル AI と産業の脱炭素化を目指すアライアンスを締結

ティッセンクルップAGと日立グループ傘下のグローバルロジック社は、自律型ロボットとフィジカルAIの導入を推進することで重工業のオペレーションの中核を再構築することを目的とした戦略的アライアンスの開始を発表した。

このアライアンスは、ティッセンクルップの深い産業およびオペレーションに関する専門知識と日立独自の包括的なイノベーションスタックを融合させ、業界全体のデジタルトランスフォーメーションを加速させることを目的としている。この「ラボ・トゥ・スケール」パイプラインは、日立アメリカの研究開発による基盤となるブレイクスルー、メソッドによるデジタル戦略と設計、そしてグローバルロジックによるエンタープライズグレードのソフトウェアエンジニアリングを統合している。このパイプラインは、現場データをAI駆動の自律制御にシームレスに接続することで、エンジニアリング上のボトルネックを解消し、運用安全性を向上させるとともに、重工業分野における最先端のグローバルモデルを確立する。

デジタル実験の段階を超え、両グローバル企業は、複雑なデータを測定可能な産業ROIに変換する「フィジカルAI」ソリューション群を共同開発する計画です。これらのソリューションは、安全性、サービス化、そしてグローバルなエネルギー転換の加速化に重点を置く。

「実装イヤー」の実現

このパートナーシップは、以下の2つの主要なワークストリームにおける、リスクの高い最先端イノベーションに焦点を当てている。

データインテリジェンスレイヤーと自律運用：工場現場の運用とビジネスロジックのギャップを埋めるため、GlobalLogicは、自社のUnified Data Layer (UDL) アーキテクチャに基づいたデータインテリジェンスレイヤーをthyssenkruppに導入する。UDLは、現場の運用技術(OT)データとビジネスオペレーションのITデータを統合・連携させる共通のデータおよびセマンティック基盤を提供する。これは、リアルタイムのデータ処理、意味理解、AIによる意思決定を必要とする自律型ロボットやドローンの円滑な運用を確保するための不可欠な技術である。このインフラストラクチャは、次世代の自律型ロボットやドローンの前提条件となる。ティッセンクルップの危険な環境や生産現場では、作業員の負傷を防ぐため、高リスクの検査や精密測定に対応する自律型「ロボカム」やドローンが導入される予定。安全性と効率性を向上させるように設計されたこれらのシステムは、従業員を危険区域から遠ざけ、複雑な産業プロセスを管理するための高精度データを提供することで、労働力を補完する。

脱炭素化のスピードアップ：工野心的な脱炭素化目標を達成するには、エンジニアリングのスピードを大幅に向上させる必要がある。アライアンスは、オフラインで非構造化された複雑な技術データの取得を自動化するインテリジェンスプラットフォームの導入を計画している。複雑な文書を実用的なインテリジェンスに変換することで、ティッセンクルップはグリーンエネルギープロジェクトにおける「見積もりから入金まで」のサイクルと技術エンジニアリングサイクルを短縮することを目指している。このデジタル化の加速により、エネルギー転換における管理面および技術面の複雑さが、実行のボトルネックとならないようにすることができる。

「ティッセンクルップは、史上最も重要な変革の真つ只中にある。日立およびグローバルロジックとの連携により、世界最先端のデジタル機能による支援を確実に受けることができる。この提携は、産業界を持続可能なデータ駆動型の未来へと導くという当社の戦略の礎となるものである」と、ティッセンクルップAGおよびティッセンクルップ・デカーボン・テクノロジーズのCEO、ミゲル・ロペスは述べている。「重工業の脱炭素化は時間との戦いだ。高度なAIの統合により、エネルギー転換における膨大な技術的および管理上の複雑さをより適切に管理し、これまで不可能だったスピードで、非構造化文書から実用的なインテリジェンスへと移行することが可能になる。」

(GlobalLogic Inc. 2026年6月付)

◆ Mastercam、Mastercam India の戦略的買収を完了

サンドビック・グループの一員であり、世界をリードするCAD/CAMソフトウェアプロバイダーであるMastercamは、長年にわたり信頼されるチャネルパートナーであったMastercam Indiaの買収を完了したと発表した。

今回の買収完了により、Mastercam IndiaはMastercamのグローバル組織の一員として運営されることになる。顧客はこれまで通り、信頼を寄せる現地のチームと連携しつつ、Mastercamのグローバルなリソースと専門知識という強力なバックアップを受けることができる。Mastercam Indiaは、既存のチーム体制や顧客との関係を維持したまま、Mastercam組織の一員として事業を継続する。

この重要な節目は、Mastercam Indiaが持つ地域特有の製造ニーズへの深い理解と、Mastercamのグローバルな技術的リーダーシップを融合させるものである。インド全土の顧客は、連携の強化、技術的専門知識の拡充、そして生産性と効率を向上させるソリューションへのアクセスの拡大といったメリットを享受できるようになる。

Mastercamの社長であるRuss Bukowski氏は次のように述べている。「これはMastercamにとっても、インドの製造業にとっても重要な瞬間である。Mastercam Indiaのチームをグローバル組織にさらに深く組み込むことで、現地でのサポート体制を強化し、グローバルネットワーク全体での緊密な連携を可能にする。これにより、顧客に対してより一貫性のある、シームレスな体験を提供できるようになる。」

今回の移行は、すでに確立されている強固な基盤の上に成り立っており、チームがMastercamのグローバルなスペシャリストとより緊密に連携することを可能にする。これにより、知識の共有が加速し、長期的に顧客サポートが強化される。顧客はこれまでと同様に質の高いサービスを受けられるだけでなく、今回の統合によって追加のリソースや専門知識も利用できるようになる。

サンドビックのデジタル・マニュファクチャリング・ポートフォリオの一翼を担うMastercamは、世界中でコネクテッド・マニュファクチャリング(つながる製造)技術の進化を推進し続けている。この買収により、競争が激化するグローバル市場において、拡張性の高いソリューション、技術的専門知識、そして長期的なパートナーシップを通じてインドの製造業を支援するMastercamの能力が強化される。

(Mastercam 2026年7月)

◆ HELLER、ファンボロー国際航空ショーで航空宇宙分野における専門技術を披露

HELLERは、2026年7月20日から24日に開催されるファンボロー国際航空ショーにおいて、ホール1の「Midlands Aerospace Alliance (ミッドランズ・エアロスペース・アライアンス)」の一員として出展し、航空宇宙分野向けの精密部品加工における専門技術を披露する。横形マシニングセンタを専門とする同社にとって、本イベントは業界の製造企業と交流し、複雑な航空宇宙部品の生産を支える技術やエンジニアリング能力をアピールする絶好の機会となる。

世界的な航空機需要が同分野の成長を牽引する中、製造企業は生産性、プロセスの信頼性、そしてコスト効率を向上させるソリューションをますます求めている。HELLERは、高度な工作機械技術と、豊富なアプリケーション知識およびデジタルエンジニアリングの専門性を融合させることで、この市場において強固な地位を築いてきた。

特に注力している分野の一つが、構造部品やエンジン部品に一般的に使用されるチタン、インコネル、その他の耐熱超合金といった、加工が困難な航空宇宙用材料の加工です。これらの材料は加工上の課題が多く、生産コストを抑えつつ安定した結果を得るには、高度なプロセスの安定性と精度が求められる。

工作機械技術に加え、同社はデジタルエンジニアリングやプロセスシミュレーションにおける能力についても説明する。加工環境全体をデジタル上で再現することで、顧客は生産戦略の検証、治具やツールパスの最適化、潜在的なプロセス上の問題の特定、そして確信を持った契約見積もりの作成が可能になる。このアプローチは、開発期間の短縮や生産計画の改善に寄与する。

プロセスの最適化もHELLERの航空宇宙向けソリューションの一部であり、同社は生産性の向上と機械稼働率の最大化を実現する統合型自動化ソリューションで製造企業を支援している。高度な工具管理やプロセス監視と組み合わせることで、これらの機能は、無人運転や「ライトアウト(消灯)生産」を含む、効率的かつ信頼性の高い生産環境を支える。

同社は今後も、業界パートナー、工具の専門企業、研究機関と連携し、革新的な製造技術や加工戦略の開発を続けていく。こうしたパートナーシップは、生産技術における最新の進歩を、航空宇宙製造の現場が直面する課題の解決に役立てることを可能にする。

HELLERは、ファンボロー国際航空ショーを業界で最も重要なイベントの一つと位置づけており、世界中の航空宇宙機器メーカーやサプライヤーと直接対話するための理想的な場であると考えている。同社のエンジニアやマネージャーは、業界が直面する課題について議論するとともに、機械技術、デジタルエンジニアリング、そしてアプリケーションに関する専門知識を組み合わせることで、顧客のパフォーマンスと競争力の向上にどのように貢献できるかを紹介する。

(Heller News Release 2026年6月22日付)

4. 展示会情報

◆ GrindingHub 2026 におけるトレンドと技術開発

技術レポート

シュトゥットガルトで開催されたGrindingHub 2026は、将来の研削技術の方向性を明確に示した。それは「コネクテッド(接続性)」、「自動化」、「データ駆動型」という方向性である。個々の機械に焦点を当てるのではなく、統合されたプロセスチェーンへと関心が移行し、そこにデータ駆動型の品質保証や、工具・クーラント・周辺機器をより効率的に活用するためのソリューションが組み合わせられる形となった。

世界中から約11,000人の来場者が訪れ、28カ国・462社の出展者による研削技術の最新動向や技術革新について学び、専門的な知見を深める交流の場として本展示会を活用した。来場者の50%以上が海外から参加するという高い国際性は、取り上げられたトピックがドイツ語圏の市場にとどまらず、世界の研削業界全体を形作るものであることを浮き彫りにしました。こうしてGrindingHubは、研削技術、精密表面仕上げ、工具研削、計測技術、自動化、そして研削技術のプロセスチェーン全体にわたるデジタルプロセスソリューションのための、主要な国際的プラットフォームとしての役割を改めて示した。同時に、本展示会は業界が現在直面している厳しい状況も反映していた。生産の減少、輸出の低迷、エネルギー・原材料コストの上昇、そして変動の激しい販売市場が、ビジネス環境を形作っている。だからこそGrindingHub 2026では、単体の機械に注目するのではなく、センサー技術、計測データ、デジタルフィードバックを活用してプロセス監視や品質保証を行う、より生産性が高く堅牢なプロセスチェーンに重点が置かれた。GrindingHub 2024と比較すると、顕著な変化が見て取れる。前回展でも、自動化、デジタル化、サステナビリティ、クーラント供給、新しい研削工具のコンセプトなどが主要トピックとして取り上げられていたが、2026年のイベントでは、研削プロセスが持つ「システムとしての側面」がさらに強調された。研削はもはや単なる一つの作業としてではなく、機械、工具、センサー、計測技術、データ管理、自動化、保守から構成される統合的なプロセスとして捉えられるようになっている。この傾向は展示会において極めて顕著であった。多くの新製品は、単に個々の工程パラメータを改善するだけでなく、工程の安定性、オペレーターの利便性、トレーサビリティ、エネルギー効率、そして品質保証といった要素に同時に対応するよう設計されていた。個々の機械から工程横断型の製造システムへと進化している様子は、特に、統合的な計測・補正ソリューション、データ駆動型の主軸および機械状態モデル、自動ドレッシング／工具製造セル、そして高い材料除去率と(品質等の)維持を両立させる新しい工具設計などにおいて、如実に表れていた。

全体的な技術開発：ネットワーク化された製造システムとしての研削

GrindingHub 2026では、研削技術の進歩はもはや、より高いスピンドル出力、より剛性の高い機械構造、あるいはより精密な研削工具といった点だけで説明できるものではないことが示された。重要なトレンドは、これらの個々のコンポーネントの機能的な統合にある。ますます、プロセスデータ、

工具の状態、機械の挙動、測定結果をどのようにシステムにフィードバックするかという問題に、より強く焦点が移っている。このようにして、研削プロセスはより安定、効率的、かつ再現性の高い方法で実行され、統合システムとして捉えられるようになる。その結果、イノベーションの焦点は、純粹なプロセス設計から、より高度なプロセス制御へと移行している。この展示会では、研削技術がより堅牢で、デジタルサポートを備え、場合によっては適応型のプロセスチェーンへと向かっていることが強調された。Wema Glauchau氏は、Wotan Dynamic Restを例に挙げ、動的定置装置が加工中の長くて柔軟なワークピースの位置ずれをどのように能動的に補正できるかを実演した。GMNはIdea-4Xを用いて、スピンドル状態データが監視、保守、およびプロセス評価にますます活用されていることを実証した。もはや目標は、より高精度またはより高速な研削を行うことではなく、プロセス全体を通して品質の推移を監視し、記録し、必要に応じて的を絞った方法で影響を与えることである。

この文脈において、人工知能(AI)は支援および分析技術としての役割をますます担うようになっていく。例としては、データ駆動型の機械およびプロセス診断、自動摩耗評価、そして運用、保守、プロセス計画を支援するシステムなどが挙げられる。技術的な観点から、AIは研削技術プロセスの理解に取って代わるものではなく、機械、工具、センサー、および測定技術から得られる大量のデータを統合および解釈するためのツールであることを理解することが不可欠である。システムがこれらのデータを信頼性の高いプロセス情報に変換し、運用、品質保証、保守、またはプロセス最適化に利用できるようにすることで、そのメリットが最も顕著になる。

研削技術：プロセスに関する知見とシステム統合のバランス

GrindingHub 2026は、研削技術の未来が個々のコンポーネントの単独的な改良にあるのではなく、それらを安定し、監視され、かつ費用対効果の高いプロセスチェーンへと統合することにあるという点を、鮮明に示した。より高性能な工具、柔軟なチャッキングおよび支持システム、最適化されたクーラント供給、プロセスに最適化された計測技術、自律性の高いハンドリング・ソリューション、そして安全なデジタル・インフラストラクチャといった要素が、互いに連携し、統合されたシステムを形成するようになっている。こうした相互作用の中で、生産性、品質、資源効率を決定づける要因として、プロセスに関する知見、データ、そして自動化がますます重要な役割を担うようになっている。

AIを活用したデータ主導型のソリューションは、機械の状態、工具の摩耗、プロセスの逸脱、品質特性の評価を容易にすることで、この傾向をさらに後押ししている。これにより、より綿密に監視され、長期的にはより自律的な製造プロセスを実現するための基盤が築かれる。この分野における進歩は、単一の技術的ブレークスルーというよりも、むしろ数多くの実用的な細部の改良の積み重ねにある。そうした改良によって、研削プロセスはより安定し、費用対効果が高まり、透明性が向上するとともに、エンドツーエンドの製造戦略への統合も容易になる。

(Grinding Hub Press Release 2026年6月30日付)

5. その他

◆ユーザー産業情報

OMV ペトロム、ブルガリア大型太陽光・蓄電池事業に参画 初の大規模 BESS 投資

オーストリア石油大手のOMVのルーマニア子会社、OMV Petromは15日、ブルガリア最大級の太陽光発電・蓄電池併設プロジェクト「ガバレ(Gabare)」に参画すると発表した。同社にとって初の大規模蓄電池システム(BESS = Battery Energy Storage System)事業となる。投資額は約3億ユーロで、このうち約1億ユーロを蓄電池関連設備に充てる。

ガバレ・プロジェクトはブルガリア北西部のビャラ・スラティナで計画されている。太陽光発電設備の出力は415MWp (メガワットピーク)、蓄電池設備の容量は600MWh (メガワット時)に達する。2028年の運転開始を予定しており、太陽光発電と蓄電池を組み合わせることで、再生可能エネルギーの出力変動を抑えながら電力供給の安定化を図る。

OMVペトロムは近年、石油・ガス事業への依存低減に向けて再生可能エネルギー投資を拡大している。2030年までに再生可能エネルギー発電容量で2.5GW(ギガワット)超を確保する目標を掲げており、今回のガバレ事業はその戦略の一環に位置付けられる。

欧州では再生可能エネルギー導入拡大に伴い、電力系統の安定化に不可欠な蓄電池市場が急成長している。OMVペトロムにとっても、今回の案件は発電事業の脱炭素化と電力事業拡大に向けた重要な足掛かりとなる。

(renewablesnow 6月15日付)

<https://renewablesnow.com/news/omv-petrom-advances-415-mwp-bulgarian-solar-storage-project-1296411/>

独政府、初の航空戦略を閣議決定 SAF・ドローン・航空産業競争力を強化

ドイツ連邦政府は6月10日、航空産業、航空輸送、民間航空、防衛航空を一体的に扱う初の「航空戦略(Luftfahrtstrategie)」を閣議決定した。持続可能で安全かつ競争力のある航空立国としての地位を強化することを目的とし、今後15年間の航空政策の指針とする。

戦略では、①経済・技術競争力の強化、②主権確保(軍民両用技術を含む安全保障能力の維持)、③レジリエンス(航空インフラの強靱化)、④持続可能性の向上 ―― の4つを柱に掲げた。航空宇宙産業を重要な戦略産業と位置付け、技術開発や生産基盤の維持・強化を進める。

競争力向上策としては、航空保安検査費用や航空管制手数料の負担軽減を2029年まで段階的に実施するほか、航空需要の回復と国際競争力向上を目的に、航空税(Luftverkehrssteuer)を2026年7月1日から引き下げる方針を示した。

環境分野では、持続可能な航空燃料(SAF = Sustainable Aviation Fuel)やe-Fuel(再生可能電力由来の合成燃料)の普及拡大を重点施策に据える。国内生産能力と供給網の整備を支援するとともに、欧州排出量取引制度(ETS = Emissions Trading System)における再生可能燃料の評価改善を働きかける。

また、空港のデジタル化や気候中立運営を推進し、鉄道など他の交通機関との接続強化を進める。地域空港や貨物空港を含む24時間対応可能な航空ネットワークの維持も重視する。

このほか、ドローン市場の成長を見据え、飛行空域を管理する国家的な「U-スペース法」を2026年末までに整備する方針を盛り込んだ。連邦政府は今後、航空業界との継続的な対話を通じて戦略を実行し、ドイツ航空産業の競争力と持続可能性の向上を図る考えだ。

(プレスリリース 6月10日付)

<https://www.bundesregierung.de/breg-de/aktuelles/kabinett-neue-luftfahrtstrategie-2438722>

BASF、全固体電池向け高性能バインダーを開発 寿命と生産安定性を向上

化学大手の独BASF (BASF SE)は8日、電動車(EV)向け次世代電池用の高性能バインダー「OPPANOL (オパノール) N PLUS」を開発したと発表した。全固体電池をはじめとする次世代電池市場を見据えた製品で、9～11日にドイツ・シュツットガルトで開催される電池見本市「The Battery Show Europe 2026」で公開する。

バインダーは、電極中の活物質や導電助剤を集電箔に固定する接着材で、電池の性能や寿命、安全性を左右する重要材料である。特に全固体電池では充放電時の機械的応力や材料間の界面安定性が課題となるため、従来以上に高い性能が求められている。

今回開発したOPPANOL N PLUSは、安定性や粘着性、皮膜形成能力に優れるポリイソブテンをベースとしたバインダーである。高い可塑性と伸縮性を備え、充放電に伴う電極内部の機械的負荷を吸収することで、電池の長寿命化と性能安定化に寄与する。また、化学的に不活性な特性を持つため、電池内部での不要な副反応を抑制できるという。

BASFによると、同製品の採用により電池メーカーや自動車メーカーは、生産工程のばらつき低減や品質管理負担の軽減が期待できる。さらに、電極組成の変更頻度を抑えながら、製造条件の迅速かつ安定した最適化が可能になるとしている。

全固体電池はEV向け次世代電池の有力候補として開発競争が激化しており、材料メーカー各社も電解質や電極材料に加え、バインダーなど周辺材料の開発を加速している。BASFは今回の新製品投入を通じて、次世代電池材料市場での事業拡大を目指す。

(ad-hoc-news.de 6月8日付)

<https://www.ad-hoc-news.de/boerse/news/ueberblick/basf-clears-coatings-sale-debuts-battery-binder-and-backs-q2-view-as/69523751>

ユニパー、カナダ LNG 新規プロジェクトから年 200 万トン調達へ 独の供給多様化を推進

独エネルギー大手のUniperは8日、カナダのLNG (液化天然ガス)輸出プロジェクト「クシ・リシムス(Ksi Lisims LNG)」を推進する企業連合と、LNGの長期調達に向けた趣意書(LOI)を締結したと発表した。ロシア産ガス依存からの脱却を進めるドイツにとって、供給源の多様化とエネルギー安全保障強化につながる案件となる。

クシ・リシムスLNGは、カナダ・ブリティッシュコロンビア州東部の天然ガス資源を、新設予定のパイプライン「プリンス・ルパート・ガス・トランスミッション(PRGT)」で西海岸へ輸送し、浮体式LNG輸出ターミナルを通じて海外へ供給する計画である。プロジェクトは、カナダのRockies LNG、米国のWestern LNG、およびNisga'a Nationによるコンソーシアムが推進している。2027年に建設を開始し、2032年の輸出開始を予定する。

計画される年間輸出能力は1,200万トン。ユニパーはこのうち年間200万トンを調達することで基本合意した。さらに、独エネルギー大手のSEFEも5月に年間100万トンの調達に関するLOIを締結しており、両社を合わせるとドイツ向け供給量は年間300万トンとなる。これは同プロジェクトの総輸出能力の約25%に相当する。

ユニパーのCEOであるMichael Lewisは、「LNGポートフォリオの拡充と多様化は引き続き重要な優先課題である。豊富な天然ガス資源、政治的安定性、信頼できる規制環境を備えたカナダは魅力的な供給先だ」と述べた。

欧州では天然ガス供給の安定確保が引き続き重要課題となっており、ドイツ企業による北米LNG調達契約の拡大が進んでいる。今回の合意も、長期的なエネルギー調達基盤の強化に向けた動きとして注目される。

(プレスリリース 6月8日付)

<https://www.uniper.energy/news/uniper-and-canadas-ksi-lisims-lng-sign-letter-of-interest-for-lng-supply>

オルレン、ポーランド北部に水素ステーション開設 国内7カ所目

ポーランドの石油・エネルギー大手Orlenは2日、ポモージェ県グディニャに一般向け水素ステーションを開設したと発表した。国内では7カ所目の水素ステーションとなり、水素燃料電池車(FCV)のほか、水素バスやトラックへの燃料供給にも対応する。

新設したステーションには、乗用車向けの700気圧と、大型車向けの350気圧の充填設備を備える。貯蔵能力は630kgで、充填時間は乗用車で約5分、バスで約15分としている。

供給する水素は、オルレンが運営するヴウオツワヴェクおよびトシェビニャの水素ハブから輸送する。両拠点は同社の水素供給ネットワークの中核を担っており、ポーランド国内のモビリティ用途向け水素供給体制の拡充を進めている。

グディニャでは今夏、水素バスの試験運行開始が予定されている。運行に必要な燃料は今回開設したステーションから供給される見通しで、水素モビリティの実証拠点としての役割も担う。

オルレンは中東欧地域における水素インフラ整備を成長戦略の一つに位置付けており、ポーランドに加えチェコやスロバキアでも水素ステーション網の拡充を進めている。今回の開設は、同国における水素輸送の実用化と商業展開を後押しする取り組みとなる。

(rockfin.pl 6月2日付)

<https://www.rockfin.pl/de/aktuelles/13-49-rockfin-epc-orklen-wasserstofftankstellen-gdynia-plock>

オープン AI、独 AI 開発基盤企業オナを買収 企業向けコーディング支援を強化

米AI開発大手のOpenAIは11日、ドイツのAI開発基盤スタートアップOnaを買収すると発表した。自社のソフトウェア開発支援ツール「Codex（コーデックス）」の機能強化が狙いで、企業向けAI開発支援市場で競争するAnthropicへの対抗姿勢を鮮明にした。

オナは2020年に「ギットポッド(Gitpod)」として設立された。当初はクラウド上でのソフトウェア開発環境の提供を主力としていたが、2022年の「ChatGPT」公開以降、生成AIの急速な普及を受けて事業モデルを転換。AIエージェント向けのクラウド実行基盤「Ona」を開発した。

同プラットフォームは、AIエージェントがソフトウェア開発を行う際に必要なコードやプロジェクト情報を認識し、開発環境を自動構築する機能を備える。さらに、コードの誤り検出や修正、テスト実行などを支援し、AIによる自律的なプログラム開発を可能にする。

オナによると、同基盤は世界で200万人を超える開発者に利用されており、生成AIを活用したソフト開発の基盤技術として存在感を高めている。

オープンAIは近年、個人向けチャットサービスに加え、企業向けAIエージェントや開発支援ツールの強化を進めている。今回の買収により、コードックスや将来のAIエージェント製品にオナの技術を統合し、ソフト開発の自動化機能を拡充する考えだ。企業向け市場では、アンソロピックやGoogle DeepMindなども開発支援AIの強化を進めており、競争が一段と激化しそうだ。

(プレスリリース 6月11日付)

<https://openai.com/index/openai-to-acquire-ona/>

ボッシュ、人型ロボット事業を強化 自動車部品依存脱却へ新市場開拓

独総合技術大手のBosch（ボッシュ）は10日、ベルリンで開催したIoTイベント「Bosch Connected World (BCW)」で、人型ロボット関連事業を今後の成長分野として強化する方針を示した。人工知能(AI)の進化を背景に人型ロボット市場の急拡大が見込まれる中、自動車部品事業の低迷を補う新たな収益源として育成する考えだ。

同社のStefan Hartung社長は、「人型ロボットの普及に伴い、ボッシュの部品やソリューションへの需要は大きく伸びる」と述べた。ボッシュはセンサー、制御装置、ソフトウェア、駆動技術など幅広い技術を保有しており、人型ロボット向けサプライヤーとして有利な立場にあるとみている。

人型ロボット市場はまだ黎明期にあるものの、成長期待は大きい。英投資銀行のBarclaysによると、世界市場規模は2024年時点で5億ドル未満だが、2035年には約2,000億ドルへ拡大する見通しである。

ボッシュは既に具体的な取り組みを進めている。2026年1月には、人型ロボット開発を手掛ける独スタートアップのNeura Roboticsと戦略的技術開発パートナーシップを締結した。ボッシュは自社工場で収集した実運用データをロボットの学習に提供するほか、将来的にはロボットの組立受託やモーター製造、部品供給なども視野に入れる。

同社が特に強みを持つのがMEMS（微小電気機械システム）センサー分野である。人型ロボットでは物体把持や歩行時のバランス制御などに高精度センサーが不可欠であり、ボッシュは世界最大級のMEMSセンサーメーカーとして優位性を持つ。MEMSセンサー市場は2024年の約150億ドルから2030年には190億ドル超へ拡大すると予測されており、人型ロボット市場の成長が新たな需要を生み出す可能性が高い。

自動車業界の電動化や価格競争の激化で部品メーカーを取り巻く環境が厳しさを増す中、ボッシュはAIとロボティクスを次世代の成長エンジンとして位置付けている。

(プレスリリース 6月10日付)

<https://www.bosch-presse.de/pressportal/de/en/bcw-2026-bosch-pushes-ahead-with-technologies-for-automation-and-robotics-283328.html>

インフィニオン、ビンロボティクスと提携 人型ロボット開発を支援

独半導体大手のインフィニオン(Infineon Technologies)は9日、ベトナム最大の民間複合企業ビングループ(Vingroup)のロボット子会社ビンロボティクス(VinRobotics)と、人型ロボット分野での戦略パートナーシップに関する基本合意を締結したと発表した。ビンロボティクスが進める人型ロボットの開発を支援する。

両社はハノイにあるビンロボティクスの拠点内に共同コンピテンスセンターを設置し、人型ロボット向けの研究開発を進める。インフィニオンは、マイクロコントローラー、パワー半導体、各種センサーに加え、通信、データセキュリティ、機能安全分野の製品や技術を提供する。

インフィニオンのフィリップ・フォン・シーアシュテット最高営業責任者(CSO)は、「ビンロボティクスとの協業の目的は、製造業からサービス業、家庭向けまで幅広い分野で利用される次世代人型ロボットの開発を加速することにある」と述べた。

ビンロボティクスは開発した人型ロボットをまずベトナム国内市場に投入し、その後は海外市場への展開を段階的に進める方針だ。

インフィニオンは自動車や産業機器向けで培った半導体技術を活用し、人型ロボット市場向け事業の拡大を図る考えである。ロボットの高性能化に不可欠な制御用半導体やセンサー需要の拡大を見据え、成長市場への取り組みを強化する。

(プレスリリース 6月9日付)

<https://www.infineon.com/market-news/2026/infps202606-108>

サーカス、軍向け AI 調理ロボットに商機 NATO 各国と交渉進む

人工知能(AI)を活用した調理ロボットを開発する独スタートアップのサーカス(Circus)は、軍向け市場を有望な成長分野と位置付けている。軍関係者からの引き合いが急増しており、安定した食事供給能力や拡張性、過酷な環境下での運用性能が評価されているという。創業者のニコラス・ブルヴィンケル社長への取材を基に、独紙フランクフルター・アルゲマイネが報じた。

同社は2021年に設立され、本社をハンブルクに置く。今年から全自動AI調理ロボット「CA-1」の販売を開始し、現在17台が稼働している。小売大手REWEでは店舗での実演販売に活用されているほか、IT大手メタや自動車大手メルセデス・ベンツが社員食堂に導入している。

軍向けでは、ドイツ北部アルト・ドゥーフエンシュテットの連邦軍兵舎への納入が初の事例となった。近くウクライナ軍への供給も予定している。さらに、北大西洋条約機構(NATO)加盟国10カ国以上と導入に向けた協議を進めている。

同社は米国防総省のサプライヤー認定も取得した。米軍の関係者は約200万人に上ることから、将来的な大口顧客となる可能性がある。

CA-1は1時間当たり70~100食を調理でき、本体価格は25万ユーロ。これに加え、ソフトウェアとAIシステムの利用料として月額最大1万ユーロが必要となる。同社によると、1日約100食を1食7ユーロで販売した場合、投資回収が可能としている。

軍向けには、安全性や耐久性を高めた専用モデル「CA-M」も開発した。価格は50万~60万ユーロで、CA-1を大きく上回る。

サーカスは軍以外にも、病院、介護施設、企業、空港、駅などで需要拡大を見込む。人手不足や人件費上昇への対応策として導入が進む可能性がある。今年の売上高は4,400万～5,500万ユーロを見込む一方、営業損益は600万～800万ユーロの赤字を予想している。2027年または2028年の黒字化を目指す。

(FAZ 6月5日付)

<https://www.faz.net/aktuell/wirtschaft/unternehmen/kochroboter-ki-erobert-die-feldkuechen-200888334.html>

独企業の AI 利用率 54.5%に上昇 製造業が導入をけん引

ドイツ企業の54.5%が人工知能(AI)を業務で利用していることが、Ifö経済研究所の5月のアンケート調査で分かった。2025年の40.9%から約14ポイント上昇した。導入を計画している企業は16.0%、導入を検討中の企業は21.6%に達しており、AIの普及は今後も加速する見通しだ。

業種別では製造業が58.7%で最も高く、サービス業が56.2%、卸売業が45.6%、小売業が44.4%で続いた。建設業は39.8%と最も低かったが、前年の7.1%から大幅に上昇し、伸び率では全業種中トップとなった。

企業規模別では大企業の利用率が67.2%と最も高かった。一方、小企業は51.2%と、中企業の47.2%を上回った。AIサービスの利用コスト低下や導入の容易化が、中小企業への普及を後押ししているとみられる。

AIを利用する企業の約75%は外部の有料AIソリューションを活用している。無料のAIソフトを利用する企業は48.4%で、このうち無料サービスのみを利用する企業は22.5%だった。独自のAIシステムを開発している企業は18.7%にとどまり、多くの企業が既存サービスを導入する形でAI活用を進めていることが分かった。

利用分野では、管理業務、データ分析、プログラミング、文書作成・処理、情報検索、計画立案、顧客対応などが中心となっている。製造業では品質管理、生産計画、設備保全など生産現場での活用が広がっており、業務効率化や競争力向上に向けた重要なツールとして定着しつつある。

(spiegel.de 6月12日付)

<https://www.spiegel.de/netzwelt/kuenstliche-intelligenz-jede-fuenfte-firma-sieht-ki-als-ersatz-fuer-hochschulabschluss-a-67dd38cb-58b1-4340-acb9-34b3da3f4382>

Iberdrola と BP、25MW グリーン水素設備が試運転開始

スペインのIberdrolaと英BPは、スペイン・カステリオン製油所で建設を進めていた出力25MWのグリーン水素製造設備を完成させ、試運転を開始した。2026年末の商業運転開始を予定している。

設備には米Plug Power製の5MW級PEM（固体高分子形）水電解装置5基を採用した。年間約2,800トンのグリーン水素を製造し、製油所で使用する天然ガス由来の水素を代替する。使用電力は年間約200GWhの太陽光・風力発電で賄う。

事業は両社が50%ずつ出資する合弁会社「Castellón Green Hydrogen」が推進する。スペイン政府とEUから計1,500万ユーロの補助金を受けるほか、IPCEI(欧州共通利益重要プロジェクト)の「Hy2Use」にも採択され、最大2億1,100万ユーロの支援対象となっている。両社は製油所内で追加のグリーン水素設備の導入も検討している。

一方、BPは近年、水素事業の見直しを進めており、豪州の「H2Kwinana」や「Australian Renewable Energy Hub (AREH)」、英国の「H2Teesside」、オマーン・ドゥクム経済特区で計画していた大型水素プロジェクトから相次いで撤退している。

その中で、カステリオン案件は建設を完了し試運転段階へ移行した数少ない大型案件であり、BPの水素事業における中核プロジェクトの一つとして注目される。

(/power-to-x.de/ 6月29日付)

<https://power-to-x.de/iberdrola-und-bp-schliessen-bau-der-25-mw-anlage-fuer-gruenen-wasserstoff-in-spanien-ab/>

独緑の党、50 億ユーロの暑熱対策を提案 PV・空調導入を加速へ

ドイツで6月末の熱波がピークを迎える中、緑の党のカタリーナ・ドレーゲ院内総務は、総額50億ユーロ規模の「暑熱対策緊急プログラム」の創設を政府に求めた。保育所や学校、病院、介護施設を対象に、太陽光発電(PV)と空調設備を組み合わせた「Klima-Solar-Anlagen (空調・太陽光一体システム)」の導入を柱とする。

背景には、猛暑時に発生する「Hitzeplaute (猛暑・無風による電力需給逼迫)」がある。日中は太陽光発電量が増える一方、夕方以降は発電量が急減し、風力発電も低迷するため、ガス火力への依存が高まり電力価格が上昇する。このため、昼間の太陽光発電を活用して建物を事前に冷却し、夜間の電力需要を抑える運用が有効とされている。

一方、ドイツでは蓄電池やスマートメーター、需要側柔軟性(デマンドレスポンス)の整備が十分進んでおらず、再生可能エネルギーを効率的に活用する体制はなお発展途上にある。緑の党は、2026年の新規募集が停止された自治体向け暑熱対策補助制度「AnpaSo (社会施設向け気候適応支援)」の拡充・再開も求めている。

同党は、猛暑への対応には空調設備の普及だけでなく、蓄電池の導入や電力需要の柔軟な制御に加え、樹木の植栽や日陰・水辺空間の整備など都市環境の改善を組み合わせた総合的な対策が必要としている。

(cleanthinking.de 6月28日付)

<https://www.cleanthinking.de/droege-klima-solar-anlagen-schulen-kitas/>

ソラリス、ゼロエミッションバス需要に対応 新組立工場を開設

ポーランドのバス製造大手ソラリスは23日、西部シロダ・ビエルコポルスカ工場に新たな組立施設を開設したと発表した。電気バスや水素燃料電池バスを中心とするゼロエミッション車の需要拡大に対応し、生産能力を増強する。投資額は公表していない。

新施設の延べ床面積は約7,000平方メートルで、都市バスの最終組立工程を担う。これまで同工程はボズナン近郊のボレホボ工場のみで行っていたが、2拠点体制とすることで年間生産能力を約500台引き上げる。新たに約300人を雇用する予定だ。

同社はあわせて、シロダ・ビエルコポルスカに都市間バス専用の新工場を建設する計画も明らかにした。すでに約47ヘクタールの用地を取得しており、2029年の操業開始を目指す。

ソラリスの2025年の納入台数は1,631台で、このうち86%が低排出車またはゼロエミッション車だった。欧州では公共交通機関の脱炭素化を背景に電気バスや水素燃料電池バスへの更新が進んでおり、同社は生産能力の拡大を通じて需要の取り込みを図る考えだ。

(busplaner.de 6月24日付)

<https://www.busplaner.de/en/news/solaris-opens-new-final-assembly-plant-city-buses-further-investments-expansion-announced-285312.html>

Fraunhofer ILT、Euro 7 対応コーティング技術を強化 Etxetar と提携

ドイツ・アーヘンのFraunhofer Institute for Laser Technology (Fraunhofer ILT)と、スペインの産業機械メーカーEtxetarは、レーザ金属肉盛(LMD = Laser Metal Deposition)および超高速レーザ肉盛(EHLA = Extreme High-Speed Laser Material Deposition)の産業展開に向けて協力覚書を締結した。最大の狙いは、自動車の環境規制「Euro 7」への対応で需要拡大が見込まれるブレーキディスク用耐摩耗コーティング技術の実用化を加速することにある。

EHLAは金属粉末を高速で溶融・成膜するレーザクラッディング技術で、従来法より高い材料利用効率と生産性を実現できる。Euro 7ではブレーキ摩耗粉じんの排出規制が導入されることから、耐摩耗コーティング技術として注目を集めている。

両者はプロセス技術、産業機械設計、アプリケーション開発の知見を融合し、航空宇宙、鉄道、宇宙分野への展開も進める。Etxetarはタービンプレードやブリス(一体翼ディスク)、鉄道車軸、ギア部品の補修向けLP-DED (Laser Powder Directed Energy Deposition=レーザ粉末指向性エネルギー堆積)技術を保有する。

Fraunhofer ILTはLMD・EHLA分野の代表的研究機関であり、AIを活用した「AI-SLAM」プロジェクトの成果を取り入れ、リアルタイム計測や自動パラメータ補正による品質安定化も推進する。

Fraunhofer ILTのトーマス・ショップホーフエン氏は、「ブレーキ粉じん規制は今後、中国、インド、日本などにも広がる可能性がある」との見方を示した。

EHLAは金属粉末を原料とするプロセスであり、Euro 7対応ブレーキディスクの普及が進めば、高品質な金属粉末の需要拡大も期待される。今回の提携は、環境規制を背景に拡大する表面コーティング市場を見据えた取り組みとして注目される。

(metal-powder.tech 6月24日付)

<https://www.metal-powder.tech/fraunhofer-ilt-and-etxetar-advance-lmd-and-ehla-adoption/>

ポーランド初の洋上風力発電所、完成最終段階へ

ポーランドの石油・エネルギー大手オルレンは22日、同国初の洋上風力発電所「バルチックパワー」の建設が最終段階に入ったと発表した。計画する76基の風力タービンのうち50基の設置を完了しており、年内の商業運転開始に向けて送電設備など重要インフラの試験を進めている。

バルチックパワーは、カナダの洋上風力発電大手ノースランドパワーとの合弁事業で、総発電容量は1.2GW。年間発電量は約4TWhを見込み、ポーランドの年間電力需要の約3%を賄う計画だ。

風力タービンには、デンマークのベスタス製「V236-15.0 MW」を採用する。1基当たりの出力は15MWで、タワーは高さ120メートル超、基礎を含めた全高は約250メートル、ブレード長は115メートルに達する。

また、タワーの一部には、風力発電設備として初めて、アルセロールミタル製のリサイクル鋼材を採用する。これにより、タービンのライフサイクル全体でのCO₂排出量を最大10%削減できるとしている。

(プレスリリース 6月23日付)

<https://www.orlen.pl/en/about-the-company/media/press-releases/current/2026/June-2026/50-turbines-installed-in-the-baltic-sea-as-orlen-nears-completion-of-polands-first-offshore-wind-farm>

ダイムラー・トラック、水素エンジン車を 2027 年投入へ

商用車大手の独ダイムラー・トラックは22日、独新興企業KEYOU(キーユー)と協業し、水素エンジントラックを2027年末に市場投入すると発表した。電池式EVや水素燃料電池車を中心とする脱炭素戦略を補完する新たな選択肢として、水素エンジンの実用化を進める。

KEYOUは2015年設立のミュンヘン企業で、既存のディーゼルエンジンを水素燃料で走行できるよう改良する技術を持つ。世界のエンジン・自動車メーカー向けに技術を提供しており、日本ではコマツとも協業している。

今回の協業では、ダイムラー・トラックの大型トラック「Actros L 1848」をベースに、水素エンジンを搭載した「KEYOU HICE.40」を開発する。車両総重量は40トン、航続距離は最大650キロメートルを見込む。今後は、ダイムラー・トラックの他車種への展開も検討する。

水素エンジンは既存の内燃機関技術を活用できることから、大型商用車分野では水素燃料電池と並ぶ脱炭素技術として注目されている。ダイムラー・トラックは今回の協業を通じ、水素を活用した商用車の選択肢を拡充する考えだ。

(プレスリリース 6月22日付)

<https://www.daimlertruck.com/en/newsroom/pressrelease/daimler-truck-partners-with-keyou-on-hydrogen-combustion-technology-53511488>

EU、独クアンタムダイヤモンドの量子半導体検査拠点を支援

欧州委員会は23日、量子センサー新興企業の独クアンタムダイヤモンド(Quantum Diamonds)がミュンヘンで計画する半導体計測・検査システムの生産拠点整備に対し、ドイツ政府とバイエルン州が補助金を交付することを承認したと発表した。半導体バリューチェーンの強化と欧州の技術的自立に資するプロジェクトと判断した。

クアンタムダイヤモンドは「IPF-ATEST」プロジェクトで、新型の量子センサーを活用した半導体計測・検査システムの開発・生産を進める。同システムは最先端半導体チップを高解像度で3次元検査できることが特徴で、微細化が進む半導体製造工程での活用が期待されている。

新設される拠点は、量子センサーを用いた半導体計測・検査システムの生産施設としてEU初となる見通しだ。この点を踏まえ、欧州委は総事業費の50%に当たる7,600万ユーロの公的支援を承認した。

EUは半導体分野で域内の研究開発と生産基盤の強化を進めており、今回の支援も量子技術を活用した次世代半導体製造・検査技術の競争力向上を後押しする取り組みと位置付けられる。

(ovb-heimatzeitungen.de 6月24日付)

<https://www.ovb-heimatzeitungen.de/geldmarkt/2026/06/23/eu-gibt-geld-fuer-quantum-diamonds-frei.ovb>

ニコン SLM、中南米で販売網拡大 Xpertos3D と提携

ドイツ・リューベックの金属AM(積層造形)装置メーカーNikon SLM Solutionsは、アルゼンチン・ブエノスアイレスのエンジニアリング企業Xpertos3Dと販売・技術提携したと発表した。Xpertos3Dは今後、アルゼンチン、チリ、エクアドルでニコンSLMの金属AM技術を提供し、航空宇宙やエネルギー分野を中心に顧客開拓を進める。

両社は、製造業におけるリードタイム短縮やサプライチェーンの強靱化、複雑形状部品の需要拡大を背景に、中南米で金属AMの普及を加速させる方針だ。Xpertos3Dは装置販売に加え、設計支援、試作、量産導入までを含むエンジニアリングおよびコンサルティングサービスを提供する。

ニコンSLMのサム・オリアリー最高経営責任者(CEO)は、「中南米には産業向けAM導入の大きな可能性がある」と述べ、現地パートナーとの連携を通じて技術支援体制を強化する考えを示した。

当面は航空宇宙とエネルギー分野を重点市場とする。これらの分野では、高性能で複雑な金属部品への需要が高く、金属AMによる設計自由度の向上や部品点数の削減、供給網の強化などの効果が期待されている。

今回の提携は、ニコンSLMが進める金属AM事業のグローバル展開の一環である。同社は装置販売にとどまらず、ソフトウェアや技術支援を組み合わせたソリューション提供を強化しており、中南米市場での事業基盤拡大を目指す。

(.metal-am.com 6月23日付)

<https://www.metal-am.com/nikon-slm-solutions-partners-with-xpertos3d-in-latin-america/>

amsight、金属 AM のデジタル品質管理を提唱 量産化でデータ統合の重要性高まる

ドイツ・ハンブルクのAMデータ管理ソフトウェア企業amsightは、金属AM(積層造形)の量産化が進む中、デジタル品質管理の重要性が高まっているとの見解を示した。航空宇宙や医療、防衛分野では、製品品質に加え、製造工程の再現性やトレーサビリティの確保が重要な課題になっているという。

同社によると、多くのAM工場では装置のログデータ、金属粉末の情報、後処理記録、品質検査結果などが個別に管理されており、不具合発生時の原因究明や監査対応に時間を要している。特に規制の厳しい産業では、製造履歴を証明する監査証跡(Audit Trail)の整備が大きな負担となっている。

amsightは、粉末管理から造形、後処理、品質検査までのデータを単一システムで統合し、部品単位で関連付けて管理するソリューションを提供している。これにより、報告書作成の効率化や工程分析の高度化に加え、工程変動の早期把握が可能になるとしている。

同社と連携するAdditive Centerのハリー・クレイネン氏は、「単にデータを監視するだけでは工程管理とは言えない。重要なのは工程変動と品質結果の関係を把握し、統計的工程管理(SPC)に基づく安定生産につなげることだ」と説明した。

近年の金属AM業界では、試作から量産への移行が進み、品質保証や認証対応の重要性が一段と高まっている。金属粉末についても、ロット情報や材料特性データの完全なトレーサビリティが求められる場面が増えており、データ統合による品質管理手法への関心が高まっている。

(metal-am.com 6月23日付)

<https://www.metal-am.com/amsight-highlights-data-driven-quality-management-in-additive-manufacturing/>

北欧4カ国、AM産業連携を本格化 金属粉末・材料開発で競争力強化へ

フィンランド、スウェーデン、ノルウェー、デンマークの主要AM(積層造形)関連団体は、北欧地域で初となる広域連携組織「Nordic Additive Manufacturing Alliance(NAMA)」を設立したと発表した。AMを地域の戦略産業として育成し、持続可能な製造業の強化やサプライチェーンの強靱化を進める。

NAMAは、北欧イノベーション機関が推進する「Nordic Forward: Competitiveness and Resilience for 2050」の一環として、2026～2028年に活動する。北欧各国のAM技術や産業基盤を結び付け、企業や研究機関の連携を促進するとともに、地域全体の国際競争力向上を目指す。

参加するのは、フィンランドのFAME (Finnish Additive Manufacturing Ecosystem)、スウェーデンのRISE Research Institutes of Sweden、ノルウェーのNorwegian Additive Manufacturing Cluster、デンマークのDanish AM Hubの4団体である。

プロジェクトでは、北欧地域のAM技術や設備、企業のマッピングを実施するほか、産業ニーズの分析、共通ガバナンス体制の構築、長期ロードマップの策定を進める。また、欧州および国際的な製造業政策への発信力強化も目指す。

北欧各国はそれぞれ異なる強みを持つ。スウェーデンは金属材料や金属粉末、フィンランドは産業実装とデジタル設計、デンマークは循環型ビジネスモデル、ノルウェーは海洋・エネルギー向けAM技術で競争力を有する。

欧州では脱炭素化や地政学リスクを背景に、域内での分散型製造やオンデマンド生産への関心が高まっている。今回のNAMA設立は、北欧を一つのAM産業圏として育成し、金属粉末、AM装置、部品製造を含むサプライチェーン全体の競争力強化を図る取り組みとして注目される。

(metal-am.com 6月23日付)

<https://www.metal-am.com/nordic-am-alliance-launched-to-strengthen-regional-cooperation/>

ステランティス、Wayve、Uber がL4ロボタクシーで提携

欧州自動車大手のステランティス、英自動運転スタートアップのWayve、米配車大手のウーバーは17日、レベル4 (L4)の無人運転ロボタクシーの開発・商用展開で提携すると発表した。ステランティスの車両基盤、Wayveの人工知能(AI)による自動運転技術、ウーバーの配車ネットワークを組み合わせ、完全自動運転サービスの実用化を加速する。

3社は欧州や北米の都市で車両統合、走行試験、検証、導入を共同で進める。今回の覚書に法的拘束力はないものの、今後の技術開発、ライセンス供与、生産、車両調達に向けた協力の枠組みとなる。

ステランティスは、センサーを組み込んだ「L4-Ready Platforms」をベースに、高稼働の無人運行に対応する安全性と冗長性を備えた車両を供給する。Wayveは、詳細な高精度地図に依存せず、さまざまな道路環境へ適応できるエンド・ツー・エンド型AI運転ソフトを提供する。ウーバーは自社の配車アプリを通じて利用者と自動運転車両を結び付け、サービスの展開を担う。

今回の提携は既存の協力関係を発展させたものだ。ステランティスとWayveは高度運転支援システム(L2++)で協業しており、Wayveとウーバーもロンドンや東京を含む世界10都市で自動運転配車サービスの展開を計画している。

(vision-mobility.de 6月17日付)

<https://vision-mobility.de/en/news/stellantis-wayve-and-uber-enter-into-a-partnership-for-global-robotaxi-services-392269.html#>

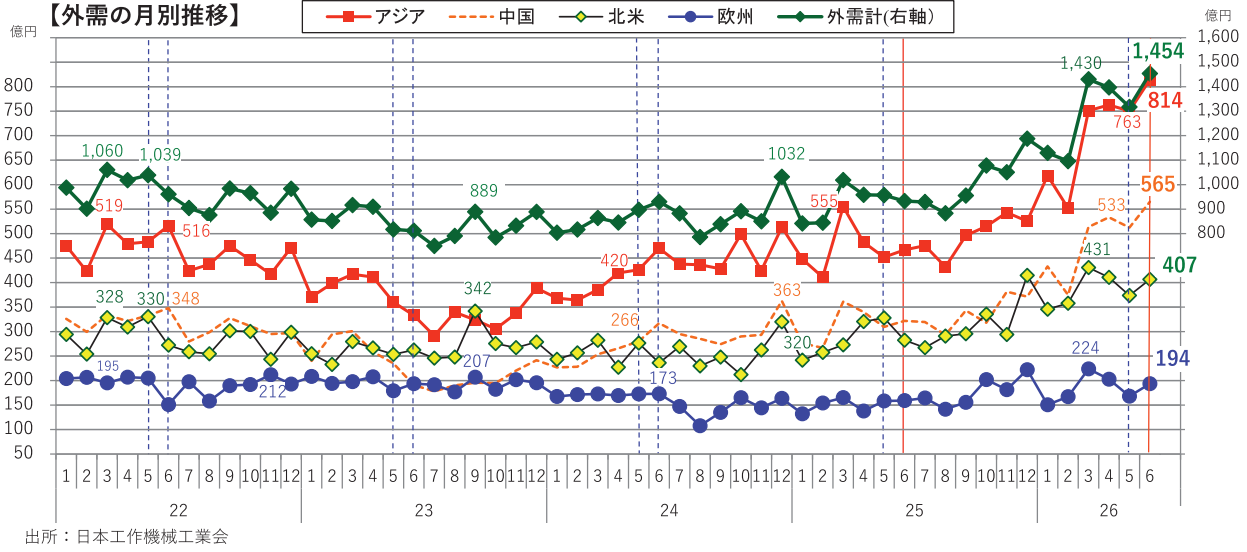
6. 日工会外需状況（6月）

外需【6月分】

1,453.6億円（前月比 + 10.4% 前年比 + 55.8%）

外需額

- ・前月比は3カ月ぶり増加も、前年比では21カ月連続の増加、歴代最高額であった2026年3月の受注額（1,430億円）を更新した
- ・外需は、国際情勢が不透明な中、欧米の投資喚起政策の効果と、アジアでの投資が持続し、高い水準が続いている



外需【6月分】

主要3極別受注

① アジア

アジア計は、4カ月連続 750億円超え、800億円超えは初めて

- 東アジアは、8カ月連続400億円超え、初めて630億円を超えた（2026年4月期の605億円と更新）
- 中国は、8カ月連続350億円超え、550億円超えは初めて（2026年4月期の533億円と更新）
- その他アジアは14カ月連続の100億円超え、歴代2番目に高い水準
- インドは3カ月ぶりに90億円超えた

② 欧州

欧州計は、2カ月連続の200億円割れ

- ドイツは、2カ月連続の40億円割れ
- イタリアは、4カ月ぶりの25億円割れ

③ 北米

北米計は、歴代4番目の406.5億円

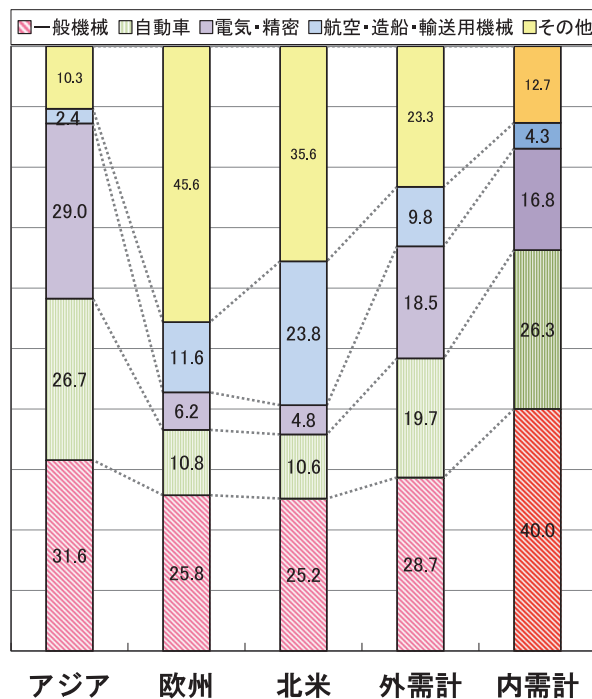
- アメリカは、2カ月ぶりに350億円超え、歴代2番目に高い水準
- メキシコは、2カ月ぶりに20億円割れ

国・地域	受注額 (億円)	前月比 (%)	前年比 (%)
アジア	814.2	+ 8.5 2カ月ぶり増加	+ 74.4 10カ月連続増加
東アジア	634.2	+ 9.0 2カ月ぶり増加	+ 79.2 10カ月連続増加
韓国	33.5	+ 69.6 2カ月ぶり増加	+ 72.5 2カ月ぶり増加
中国	564.9	+ 10.2 2カ月ぶり増加	+ 75.6 27カ月連続増加
その他アジア	180.0	+ 6.7 2カ月連続増加	+ 59.5 5カ月連続増加
インド	91.6	+ 58.6 3カ月ぶり増加	+ 78.0 5カ月連続増加
欧州	193.6	+ 15.2 3カ月ぶり増加	+ 21.6 12カ月連続増加
ドイツ	32.6	+ 1.1 2カ月ぶり増加	△ 8.3 2カ月連続減少
イタリア	24.4	△ 20.8 2カ月ぶり減少	+ 20.3 2カ月ぶり増加
北米	406.5	+ 8.8 3カ月ぶり増加	+ 44.0 11カ月連続増加
アメリカ	360.0	+ 18.6 3カ月ぶり増加	+ 44.4 17カ月連続増加
メキシコ	19.5	△ 48.5 3カ月ぶり減少	△ 17.5 2カ月ぶり減少

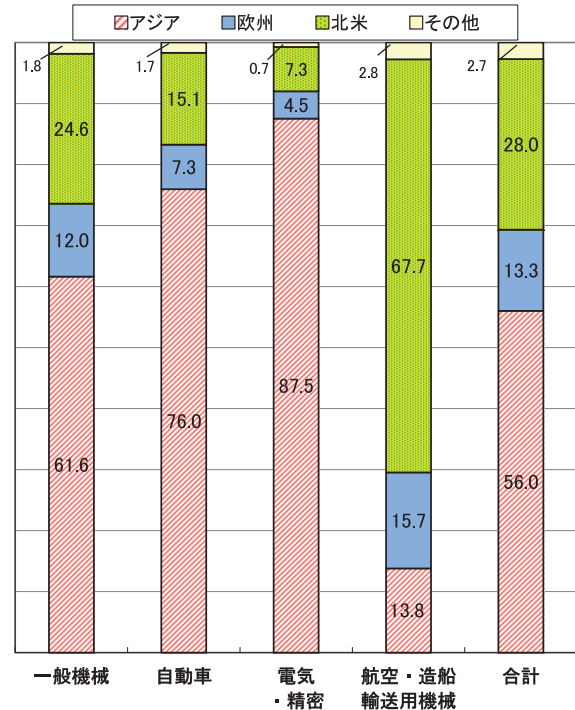
出所：日本工作機械工業会

外需【6月分】

主要3極別・業種別受注構成



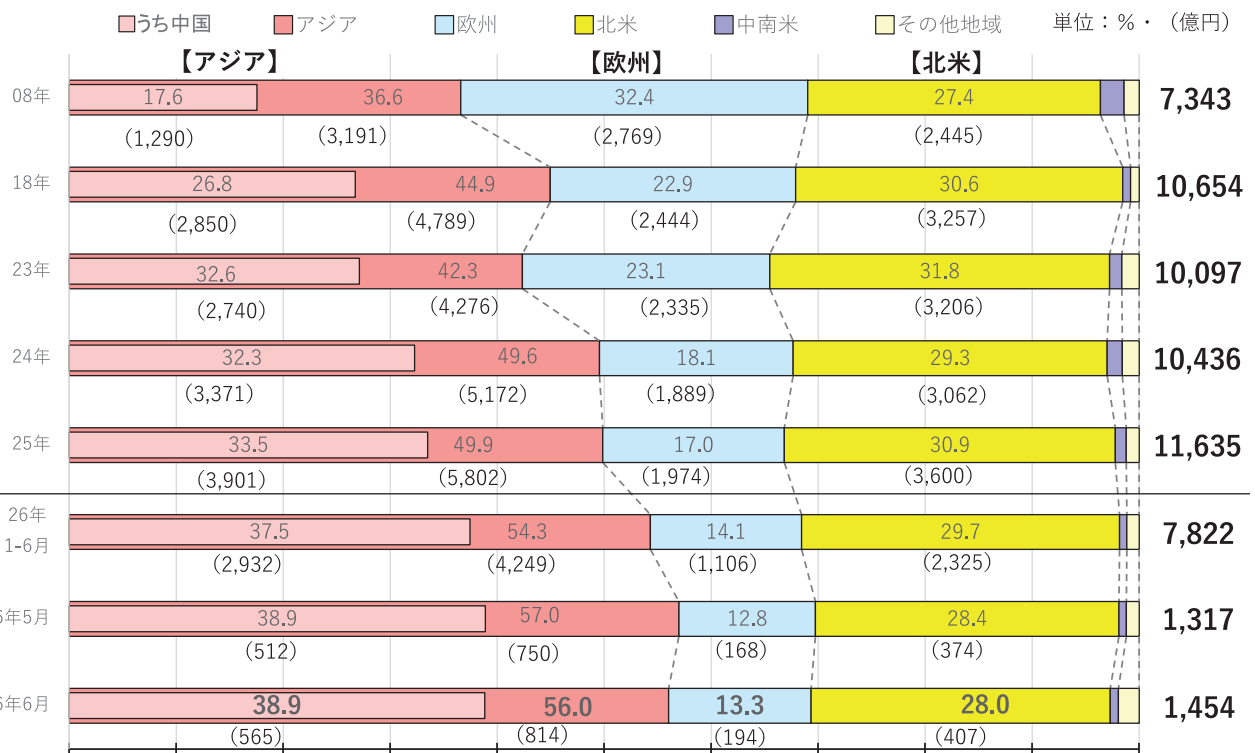
出所：日本工作機械工業会



出所：日本工作機械工業会

外需 地域別構成の推移

3カ月連続で北米比率が30割を下回る状況



出所：日本工作機械工業会

お知らせ

インド最大級工作機械展



日本パビリオン
出展募集

IMTEX 2027

日程: 2027年1月21日(木)~27日(金)

会場: バンガロール・国際展示場(BIEC)

締切間近!!
最終受付中
最終受付 7月31(金) 15:00

主 催



Indian Machine Tool
Manufacturers' Association

インド工作機械工業会



バンガロール国際展覧センター



会 場

「メイク・イン・インド」



インド首相
ナレンドラ・モディ

製造業の発展による経済成長が期待される、
これからのインド

「メイク・イン・インド(インドでモノづくりを)」
を新たな産業政策に掲げ、モディ首相は、製造業を
軸とした経済成長を実現しようとしています。政府が
規制緩和やインフラ整備に積極的に取り組んでいる
ことから、世界のメーカーがインドでの事業拡大に
動き始めています。

同時開催



ツールテック展示会



デジタルマニュファクチャリング展示会

日本パビリオン共同運営



一般社団法人

日本工作機械工業会

日本代表事務局



特定非営利活動法人 日印ビジネスビューロー

運 営



日印コンサルティング株式会社

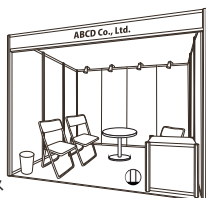
IMTEX 2027 (インド工作機械展) 出展のご案内



出展費用

A パッケージブース 365USD/㎡ (Min.15㎡) +TAX

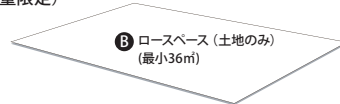
- ① 貴社名の展示会ガイドブック記載
- ② スペース
- ③ 出展者バッジ (数量限定)
- ④ 受付カウンター1台
- ⑤ 会議用丸テーブル1台
- ⑥ 椅子3脚
- ⑦ スポットライト (100w) 4個
- ⑧ 電源1ヶ所
- ⑨ ゴミ箱1ヶ所
- ⑩ カーペット



A パッケージブース (最小15㎡)

B ロースペース 330USD/㎡ (Min.36㎡) +TAX

- ① 貴社名の展示会ガイドブック記載
- ② スペース
- ③ 出展者バッジ (数量限定)



B ロースペース (土地のみ) (最小36㎡)

C 1コーナー出展 1,500USD / 1コーナー + TAX

展示台とパネルがセットになった出展です。
パネル印刷費用は含まれています。
パネルデザイン費用と輸送費用は含まれておりません。

※ 上記A,B小間費用にはインド消費税18%が別途掛かります。
※ 電気料金は別途費用になります。
※ 角ブースは別途費用がかかります。
角ブースの割増分 (2面+20% / 3面+30% / 4面+50%) は
25%OFFとなります。
※ 運営管理費用15%

日本パビリオン

装飾

- 装飾業務
設計・施工・デザイン/レイアウト・企画運営進行管理・現場監督
- その他の関連業務
 - 制作物業務
パンフレット・フライヤー・製品カタログ/パネルデザイン/運営進行管理
 - 映像業務
VJ・ビデオ製作・ナレーション/吹き替え・レイアウト企画運営進行管理
 - 運営関連業務
セミナー・ノベルティ・コンパニオン・通訳・ナレーター・レセプションアレンジ

輸送

- 日本からの一括輸送を致します。
輸送通関申告費用/税関検査関係費用/税関出張費用/検査立会費用
カルネ手配費用/船積み諸経費/保税上屋入出庫費/保税上屋運送費
コンテナ積み込み費/コンテナ維持費/海上運賃/船積書類
及び通関書類/輸入地費用/維持費/貨物上屋入出庫費
コンテナ引取費/会場内運搬費/開梱費用/据付補助費
空箱コンテナヤード運送費/その他現場運営管理費
- * 展示会主催者の規定によりオフィシャルフォワードが指定されております。

出展までの日程フロー

出展申込最終受付中

出展ご検討中の方は仮申し込みをおすすめ致します

※ ノンオブリゲーションで仮押さえさせていただきます。
※ スペースが無くなり次第、出展募集は締め切らせて頂きます。

2026年



展示会コンサルティング及び実務サポートのご案内

- ① コンサルティング・リサーチ (売上に直結する)
- ② マーケティング・販売戦略・企画・運営・実働
- ③ プロモーション・PR
(展示会事前PR・ミーティングセットアップ)
- ④ 展示会企画運営実行
- ⑤ セミナー・コンファレンス・学会企画運営実施
- ⑥ 貿易実務・ロジスティック・据付
- ⑦ 法人設立
(事務所/ショールーム/工場ロケーション提案等)
- ⑧ 人材サポート
(高度技術スタッフ、技術指導員、エンジニア、SE等)

お申し込み・お問い合わせ

出展申込は右記QRコード、またはメールでご連絡ください。

出展申込リンク



日本代表事務局

JIB 特定非営利活動法人 日印ビジネスビューロー

運営

JR 日印コンサルティング株式会社

〒107-0052 東京都港区赤坂1-3-13 溜池鈴木ビル3F

担当 安井 ☎ 090-9325-3456 橋倉 ☎ 080-6516-4331 ✉ info@ji-consulting.jp

HP <https://ji-consulting.jp>



一般社団法人

日本工作機械工業会

〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館1階

担当 本多 ☎ 03-3434-3961 (代表)

✉ honda@jmtba.or.jp